

五、清國ニ於ケル内外人合同事業特ニ日清合併企業ノ現況及將來

ナシ

六、清國自營企業ノ本邦産業ニ及ホス影響

石鹼製造所ハ洗濯用石鹼ヲ製造スルニ止リ化粧用石鹼ノ輸入ニ至リテハ却ツテ年々左ノ如ク増加ヲ示セリ

一八九九年	一四、八五六	一九〇四年	三二、二五四
一九〇〇年	四六、六九六	一九〇五年	三三、六二二
一九〇一年	四一、二〇四	一九〇六年	三四、六八五
一九〇二年	三〇、七五四	一九〇七年	四七、四八〇
一九〇三年	三一、一五三	一九〇八年	五二、四四六

蛋白質製造所ハ英人某ノ設立ニシテ其製産額極メテ少ク蕪湖ヨリ輸出セラル、額左ノ如シ

一八九九年	一六六	一九〇四年	五五
一九〇〇年	三四〇	一九〇五年	七一
一九〇一年	八六	一九〇六年	四七四
一九〇二年	七〇	一九〇七年	一六九
一九〇三年	六四	一九〇八年	六二

尙ホ蕪湖ハ有名ナル米輸出地ナルヲ以テ精米所ハ極メテ有望ナル工業ナリト雖モ斯ク我工業ニハ何等ノ影響ナシ

### 第五 南京ニ於ケル利權回收熱ニ基ク各種企業及保護政策ノ調査

(明治四十二年十一月二十日在南京領事井原眞澄報告)

#### 一、清國政府又ハ人民自營ノ工業及銀行

南京ニ於テ清國政府自營ノ工業中蒸汽々鐘ヲ使用セル新式工業ニハ銅元局(目下停業)機器局、火藥局、南洋印刷局等アレトモ機器局、火藥局ノ如キハ其設立ノ古キ割合ニ設備完全ナラス獨リ印刷局ハ端總督在任中南洋大臣管下ノ各省ニテ使用スル官用紙ハ悉ク同局ヨリ購入スヘキ旨各地方官ニ命令シタル爲メ同局ノ事業多大ノ便宜ヲ得創立後僅ニ一箇年ナルモ其營業成績頗ル良好ナリト云フ其他輸入品防遏ノ目的ニテ企畫セル商務局附屬ノ工藝局ノ如キ官立ナルモ未タ見ルヘキ價值ナシ人民自營ノ工業ハ皆手工工業ニシテ古來ヨリ存在スルモノハ當地ノ特産物タル絹織業、團扇製造業等アルモ漸次輸入外國品ニ壓倒セラル、ノ傾向アリ又輸入品ニ對抗シテ勃興セル民間手工工業ニハ「タオル」製造業、石鹼製造業、西洋家具製造業、人力車製造業、靴下製造業等アレトモ特記スヘキハ「タオル」及石鹼ノ製造ナリトス

#### 二、官民合同ノ企業又ハ政府ノ特別保護ヲ受クル清國人自營ノ企業

當地ニ於テハ純官立ノ銀行ナク半官半民ノ銀行トシテハ、裕甯官錢局一箇所ノミニシテ民間設立ノモノハ銀行ト稱スヘキ程ノモノニアラスシテ所謂在來ノ錢莊業中大ナルモノヲ寶善源、唐源、厚生豫、鼎泰、裕源祥、和大銀行、生昌等トス政府ノ特別保護ヲ享受シツ、アルハ裕甯官錢局及ヒ南洋印刷局ノ二箇所ニシテ官錢局ハ南洋財政局ノ金庫ノ事務ヲ取扱ヒ加フルニ目下壹元紙幣五百萬元餘ヲ發行シ居リテ有識者ハ政府ガ同官錢局ヲシテ無制限ニ紙幣ヲ發行セシムルヲ憂ヒ居リ印刷局ハ又官用紙一手專賣ノ特權ヲ與ヘラレ居ルヲ以テ右官錢局ノ紙幣發行及印刷局ノ官用紙一手專賣ニ關シテハ目下開會中ノ諮議局ノ一大問題ト爲リ居レリ

三、此等企業ノ成立時日、種類、企業組織(個人企業、合資、合名、株式組織等)會社ニアツテハ其定款、其

產品ノ販路、其事業ノ成績及將來ノ見込

甲、機械工業

(イ) 銅元局

當地銅元局ハ江蘇江甯戶部造幣分廠ト稱シ南京城ノ西南隅水西門内ニアレトモ昨年四月以降其鑄造ヲ停止セリ備付ノ機械ハ新舊三揃ニテ合計百五十萬兩ヲ費シタル由壹揃ハ英國製ニテ其他ノ貳揃ハ獨逸製ナリ往時盛ニ銅貨ヲ鑄造シタル際ハ一日一錢銅貨約六百萬箇ヲ製出シ一箇月ノ石炭消費高ハ二千噸ニ達シ職工ノ數千五百人職工一人ノ月給最低五弗ヨリ最高百弗ノ差異アリテ護衛兵ノ數モ千五百名ノ多數ヲ配置シタル事アリト云フ銅貨ノ種類ハ一錢銅貨ノ一種ノミニシテ其重ナル銷費地ハ上海漢口其他當地方及安徽省ノ鴉片產地等トス銅貨賣却ノ方法ハ總テ之ヲ當地官錢局ニ時價ヲ以テ引渡シ官錢局ハ更ニ之ヲ當地ノ各錢莊及湖北安徽其他ノ各地ニ於ケル需用者ニ賣却スルモノトス

從來銅元局ノ利益ハ頗ル多クシテ地方財源ノ重ナルモノナリシカ昨年中ヨリ其鑄造ヲ停止セル爲メ目下ノ損益ハ之ヲ知ルニ由ナキモ一昨年ノ純益ハ合計六十萬兩ニ達シ其内江北水害ノ救郵費トシテ全額ノ十分ノ二即チ拾貳萬兩ヲ臨時支出シ其殘額四十八萬兩ノ六分即チ廿八萬八千兩ヲ戶部ニ納付シ而シテ其殘額ハ之ヲ兩江ノ收入ニ繰入レタル由ナリ銅元局ニ於テ使用シタル原料ハ從來重ニ日本銅ニシテ古河銅、住友銅、藤田銅等ニシテ古河銅最モ好評ナリシニ數年來米國銅ヲ用フル事少カラスト云フ

銅貨鑄造停止ハ中央政府ノ命令ニ因リタル者ニシテ將來再ヒ銅貨鑄造ニ着手スルヤ不明ナリ

(ロ) 機器局

當地機器局ハ金陵製造機器局ト稱シ同治三年ノ設立ニ係リ南門外ノ廣地ニアツテ設立ノ當時二十萬兩ヲ費シ爾後大ニ其規模ヲ擴張シテ光緒九年頃ニハ工人二千餘名ノ多數ヲ使用スルニ至リシト雖モ其後漸次價格ノ點ヨリ外國品ニ壓倒セラレ目下ハ工人僅ニ三百人ノ小數ニ過キスシテ一箇月ノ勞働資金全額ハ大凡二千兩最高一人一箇月六十元ヨリ最低四元ノ差等アリ

本局最初ノ目的ハ軍器ノ製造ニシテ即チ機器正廠ハ最初ノ設立ニ係リ其設備ヲ竣リタルハ實ニ同治五年ニシテ次テ同十二年ニ機器右廠機器左廠ノ二箇所ヲ増設シテ專ラ大砲小銃ノ製作ニ從事セシカ目下此三大工場ハ全ク休工シテ機械ハ破損若クハ塵埃ニ被ラレテ使用ニ堪フル者小ナシ機器大廠ハ光緒十二年ノ設立ニ係リ目下其備付器械ノ約五分ノ一ヲ運轉シ重ニ器械ノ修理公園用ノ鐵製品等ノ製作ニ從事シ其機械ハ皆英國製ニシテ上海瑞生洋行ノ手ヲ經テ購入シタルモノニシテ「マンチエスター」Whitworth & Co. ノ製品多キ模樣ナリ同廠使用ノ發動機ハ千八百八十六年六月マンチエスター South & Hodson 會社ニ於テ製造シタルモノニシテ六十馬力ナリト云フ本工場内ニハ職工六十餘名アリ以上ノ三大工場備付ノ機械ハ大小合計シテ百四十六種ノ多數アレトモ使用ニ堪フルモノハ僅ニ數十種ニ過キス

以外漆作房、熱鐵廠、砂模廠、木廠等アルモ手工的ニシテ見ルニ足ラス捲銅廠ハ目下鐵板ノ製作ニ從事シ機械ハ上海新載生洋行ヨリ購入シ二十四馬力ノ發動機ヲ使用セリ

藥莢製造所ニハ同工場中最モ新式ノ機械ヲ備付ケ獨逸 Menselivity ノ Heymer and Paly 及ヨ Ordale 會社ノ製品ニシテ發動機ハ四十馬力ニシテ目下小銃ノ藥莢一日能ク八千箇ヲ製作セリ

元來同局ノ構内ハ頗ル廣大ニシテ煙突ノ如キ高七丈餘ノモノ六本煙突十數箇アルモ運轉セル機械トテハ全體ノ五十分ノ一ニ足ラス設備極メテ不完全ナリ尙ホ同局ニ於テ使用スル石炭ハ目下一箇年二三千噸ニ過キスシテ專ラ上海ヨリ購入シ銅ハ日本及米國品ニシテ一箇年千五百擔内外ナリト云フ

(ハ) 火藥局

火藥局ハ金陵製造洋火局ト稱シ光緒八年ノ設立ニシテ當地通濟門外ニアリ設立ノ當時ハ十數萬兩ヲ費シ其ヨリ漸次規模ヲ擴張シ目下左ノ如キ各工場ヲ有ス

機器匠、鐵匠、木匠、南碾廠、碾廠、北碾廠、和藥廠、釧藥匠、壓藥匠、篩藥廠、光藥廠、烘裝藥匠、提硝廠、提礦廠、刮柳夫、推藥夫、抬煤夫

右ノ内發動機ヲ使用スルモノハ機器廠(二十四馬力)南礮廠(五十馬力)礮廠(五十馬力)北礮廠(六十馬力)飾藥廠(六十馬力)和藥廠(二十馬力)ノ六工場ニシテ目下礮廠一箇ヲ除キテハ皆作業セリ機械ハ英國製ニシテ上海瑞生洋行ヨリ購入シ數年前迄ハ英人技師之ヲ監督セリ同局ニテハ一箇年平均大抵三十六萬磅ノ墨色火藥ヲ製出シ之ヲ五十磅入トシテ江蘇安徽ノ各軍隊ニ供給シ目下一日大凡千三十磅ヲ製出スト云フ工人ノ數ハ僅ニ百餘名ニ過キス工賃金ハ最高二十元ヨリ最低四五元ノ等差アリ一箇年石炭ノ消費高ハ一千噸ナリト云フ

火藥製造ノ原料タル硝石ハ徐州、山東、河南等ヨリ輸入シ一箇年大凡五萬兩硫黃ハ專ラ日本ヨリ輸入シ一箇年大凡百噸木炭ハ南京地方ニ産スル柳ヲ同局内ニテ蒸燒スルモノニシテ一箇年大凡二千八百擔ヲ使用ス

(二) 南洋印刷局

南洋印刷局ハ城内水西門下浮橋ナル江蘇江寧造幣分廠ノ構内ニアリ然レトモ同廠トハ何等ノ關係ナク全ク獨立ニシテ總督ノ經營設立ニ係リ資本金七十萬元ヲ以テ昨年九月六日其開業式ヲ行ヒタルモノナリ

南洋印刷局設立ノ趣旨ハ營利ヲ目的トスルニアラス專ラ官用文書ノ劃一ト民間ノ契約書等ヲ一定セシメントスル政治上ノ意味ヲ含有スルモノニシテ其印刷物ノ種類左ノ如シ

官用品、地券、紙幣、各學校卒業證書、答案用紙、圖書、書籍、各官廳ノ報告書類、釐金票、茶稅單照、運鹽護照、捐票、田租納付書、各官廳用公信用紙、封筒ノ類、

民用品、地所家屋買賣契約書、訴訟用紙、願書用紙、借用證書、婚姻契約書、質券、野引帳簿

以上ハ其主ナルモノヲ示セルモノニシテ其他何品ヲ問ハス苟モ印刷ニ關スルモノハ一切之ヲ同所ニテ引受クルト云フ其内部ノ組織ニ至ツテハ左ニ同局ノ章程ヲ記スヘシ

南洋印刷官廠章程

第一條 本廠ニ總辦一員ヲ設ケ總督ノ委任ニ由リ全廠ノ事務ヲ主持シ及ヒ局員進退ノ權アリ

第二條 本廠ニ會辦二員ヲ設ケ一ハ南京ニ駐シ一ハ蘇州ニ駐シ總督ノ委任ニヨリ總辦ト合同シテ本廠事務及蘇州發行所ヲ經理シ局員ヲ督率スルノ權アリ

第三條 本廠ニ提調一員ヲ設ケ總督ノ委任ニヨリ專ラ總辦會辦ノ命令ヲ受ケ全廠ノ局員ヲ管理シ及ヒ一切ノ事務ヲ稽查スルノ權アリ

第四條 本廠ニ工商兩部ヲ設ケ每部々長一員ヲ設ケ所屬ノ各課係ヲ管理シ總辦ヨリ總督ニ稟請シテ任命ス

第五條 工商兩部ハ部ヲ數課ニ分チ各課々長一人ヲ置キ課ヲ數係ニ分チ每係ニ係長一人ヲ置ク提調部長ヨリ其選任ヲ總辦ニ稟請シテ任用スルモノトス

第六條 各課部ニ中外技師ヲ設ケ定員ナク技師ノ下ニ技手ヲ設ケ一等二等三等ニ分チ藝徒又ハ工人ト爲シ階級ヲ定メテ提調各部長ヨリ總辦ニ稟請シテ任用ス

第七條 工商兩部ノ事務ヲ次ニ依テ列記スレハ左ノ如シ

商務部ハ各課各係ヲ督率シ事務ヲ辦理スルノ責任アリ其所屬各課四アリ

一、庶務課

甲 警衛課

乙 物料課(材料係)

二、會計課

三、營業課

甲 卸賣係

乙 購賣係

四、書記課

五、製版課

- 甲、彫刻係
- 乙、寫真係
- 丙、整版係
- 丁、電胎係
- 戊、石版製版係

六、圖案課

七、活版課

- 甲、鑄字係
- 乙、紙型係
- 丙、組版係
- 丁、校對係(校正係)

八、印刷課

- 甲、石版係
- 乙、凸版係
- 丙、凹版係
- 丁、裁紙係
- 戊、引擎係

第八條 總辦、會辦、提調、工商兩部長及各課長ハ均シク事務室ニ於テ公務ヲ辦理ス

第九條 部長課長職階ノ權ハ總辦ヨリ出テ其課長以下各係職工藝徒等ハ則チ部長課長ヨリ隨時查核シテ總辦會辦提調ニ稟請シ以テ黜陟ヲ定ム

第十條 本廠初メハ事務簡略ナルカ故ニ各課各係多クハ兼任セシメ漸次ニ之レカ増設ヲ行フ

第十一條 各課、各係員ノ俸給ハ事務ノ輕重ヲ視テ俸給ノ多寡ヲ定メ未タ一樣ノ額ヲ給セス

第十二條 此外分課規定細則等ハ別ニ之ニ定ム

尙ホ各部各課ニ付キテ細則アレトモ餘リ必要ナキヲ以テ此ニハ省略ス

工場内ノ模様ニ付キテ其大様ヲ述ンニ

(イ) 製版課

製版課トハ諸種印刷物ノ原本ヲ作ル所ニシテ之ヲ彫刻係、寫真係、整版係、電胎係、石版係、製版係ノ五係ニ分チ彫刻係トハ銅版又ハ銅版ニ彫刻ヲ施ス所ニシテ同局備付ハ「ハンド、グラフ」(縮小機)及ギリユーシユット(模様彫刻機)ト共ニ米國製ニシテ前者ハ千三百弗後者三百弗ニテ上海禮和洋行ヨリ購入シタルモノナリト云フ寫真係ハ所謂寫真版ノ原本ヲ作ル所ニシテ同局備付ノ鋼目スクリーンハ獨逸製ニシテ價三百弗ナリト云フ整版係ニ於テハ原版ノ磨滅ヲ防カンカ爲メニ同一ノ製版ヲ「クラッチ法」ニヨリテ複寫スル所ニシテ電胎係ニ於テハ電氣鍍金ノ法ニヨリテ整版係ニ於テ製シタル凹版ヲ凸版トスル所ナリ石版整版係俗ニ所謂石版手引ト稱スルモノニシテ東京深川櫻工場製ノ石版轉寫機大小合シテ六臺ヲ備付ケ大ハ百二十圓小ハ六十圓ニテ購入シタルモノナリト云フ

(ロ) 活版課

活版課ハ之ヲ鑄字、紙型、組版、校對ノ四係ニ分チ專ラ活版ノ原版ヲ製スル所ニシテ目下備付ノ活字ハ漢字及五號歐字ノミナルモ漸次日本假名ヲ作ル計畫ナリト云フ

(ハ) 印刷課

印刷課ハ之ヲ石版係、凸版係、凹版係、裁紙係、引擎係ノ五係ニ區分シ本課ニ於テハ輪轉機ノ原動力トシテ石油發動機（十馬力）ヲ使用シ右ハ英國マンチエスター（Manchester）兄弟商會製造ノモノニシテ上海晉記洋行ノ手ヲ經テ千八百弗ニテ購入シタルモノナルが尙ホ近々三十馬力ノモノ一臺ヲ增加スヘシト云フ

本課備付ノ石版輪轉機二臺ハ獨逸ライプツヒ製ノ新式ノモノニシテ原價四千弗餘ニシテ一日能ク五千枚ヲ印刷スルヲ得ト云フ尙ホ近々更ニ二臺ヲ增加スル筈ナリト云フ

活版印刷機ハ獨逸製ノモノ四個アリ内二箇ハ四六全版ニシテ價三千五百弗、餘ハ中版ニシテ價二千弗ナリ共ニライプツヒ J. C. Schelky & Giesengke 會社製ニシテ又本邦製活版小印刷機（七百圓）アリ

凹版印刷機ハ紙幣、彩票、株券等ノ精密ナルモノヲ印刷センカ爲ニシテ目下二臺ヲ据付アリ  
斷裁機ハ日本製ノモノ一臺獨逸製ノモノ一臺ニシテ裁紙製本等ニ使用ス

同局ニ於テハ日本技手五名ヲ僱聘シ石版（松岡貞吉）彫刻（伊藤榮吉）凸版整版（酒井安次郎）活版（村山留松）凹版印刷（益子末松）ノ各部ヲ教授セリ各課長係長等ハ目下二十餘名ニシテ技手二十三名藝徒三十七人工八十二人アリ尙ホ同局一箇年ノ經費ハ約五萬四千元ノ豫算ナリト云フ

印刷物ノ料金ハ各其物ニヨリテ異レトモ一般日本ニ比シテ高價ナルヲ免レス又同局使用ノ紙類インキ等ノ原料ハ専ラ上海ヨリ輸入シ工業用ノ水ハ蒸溜水ヲ使用シ其内部ノ整頓セルハ本邦各印刷會社ニ比シテ遜色ナシト云フ

一 タオル製造業

沿革 清國ニ於テ「タオル」ノ使用ヲ見ルニ至リシハ近々十箇年以前ノ事ニシテ當時ハ日本品ノ輸入ナク製品ハ専ラ外國産ノミナリシカ我國ニ於ケル「タオル」製造業ノ漸次興隆スルニ連レ上海ヲ通シテ當地ニ再輸入スルモノ日ト共ニ増加シ數年ヲ出テスシテ全ク外國品ヲ市場ヨリ驅逐シテ一昨年迄ハ全ク日本品ノ獨占ニシテ當地在留日本商人店舗ニ於テ賣行數ノ最モ宜シキハ「タオル」第一ヲ占メタリシカ本品ノ輸入増加ニ連レ當地工藝局ニ於テハ三十九年五月頃ヨリ之カ製織ヲ企畫シテ日本

製木框製織機拾臺ヲ備付ケ女工男工ヲ募集シテ製織シ始メタルカ當時使用ノ絲ハ日本福島紡績ノモノヲ使用シ其織賃トシテ一ダースニ付八仙ヲ工藝局ニ納ムル規定ニシテ民間一般ノ依頼ニヨリテ之ヲ織リ出シ一箇月少クトモ千ダース位ヲ織ルニ至リタルカ其製品ハ晒シ頗ル悪シク且ツ重量多大ニシテ手障リ惡シク外國品ト到底比較スルヲ得サリシモ價格ノ低廉ナリシ爲メ賣行頗ル宜シク常ニ供給不足ヲ告クル有様ニシテ製品ハ大小ニヨリ之ヲ一號ヨリ六號ニ區別シ一號一尺、二號一尺一寸、三號一尺四寸、四號二尺、五號二尺四寸、六號二尺八寸トシ就中二號最モ賣行宜シカリシカ其後工藝局ハ絹織物ノ事ヨリ解散スルヲ止ムナキニ至リシカハ「タオル」製織ヲ見習ヒタル女工等ハ工藝局ヨリ該製織機ヲ拂下ケ各自自宅製織ニ從事スルニ至リ其ヨリ漸次ニ増加シ來リ以テ今日ニ至レリ

現狀、南京ニ於テ「タオル」製織ニ從事スルモノハ大工場ヲ有スルモノ一軒モナク多クハ二三臺ヲ備付ケテ手内職トナスモノニシテ其内大ナルモノハ評事街ニアリテ十餘臺ヲ備付ケ其外ハ北極閣、夫子廟、北門橋等ニ散在セリ機戸ノ數ハ之ヲ精細ニ知リ難キモ織機ハ百臺内外ニシテ一日能ク一臺ニ付三四ダースヲ織ルコトヲ得一箇月平均一千ダース内外ナリト云フ  
當地ニ於テ製織スル「タオル」ノ原料タル綿絲ハ大概本邦製ニシテ日本紡績及福島紡績ノ製品最多ヲ占メ太十六手ヲ使用ス

二、石鹼製造業

往年南京ニ於ケル石鹼製造業ハ天昌、祥和ノ二箇ナリシカ昨年公茂、日益ノ兩合資會社ノ設立アリ前者ハ水西門内ニ後者ハ北極閣下ニアリテ規模稍大ナリ此等製造所ニテ製スル石鹼ハ皆洗濯用ノ粗惡ナルモノナレトモ從來専ラ本邦ヨリ輸入シタル洗濯用石鹼ヲ市場ヨリ驅逐シ尙ホ其販路ヲ南京以外ノ地ニ迄及ホシ他省ニ輸出スルモノ年々増加シ目下右四製造所ニ於ケル一日ノ製産額ハ合計百二十箱餘ニ達シ公茂、日益兩社ノ製造高ハ一日各五十箱ニ及フト云フ其製造原料ハ牛脂、曹達、松脂鹽等ニシテ牛脂ハ主ニ山西方面ヨリ購入シ日益、公茂ノ兩社ニテハ一箇月ニ各六七千斤ヲ使用シ其一擔ノ原價ハ十六元ナリト云フ曹達ハ上海ヨリ外國品ヲ輸入シ前記兩社ニテハ一箇月ニ各貳千斤ヲ使用シ一斤購入價ハ十五仙ナリト云フ又松脂ハ上海又ハ土產ヲ購入シ前記ノ兩社ニテハ一箇月各二千百斤ヲ使用シ一擔ノ元價ハ七元ナリト云フ

前記ノ各製造所ニテ製造スル洗濯石鹼ニハ黃白ノ二種類アリ何レモ二箇ヲ以テ一連トシ黃色ナルモノハ其品質惡シク一箇ノ賣價二仙一箱八十四連入ニテ貳弗拾仙其重量ハ八兩ナリト云フ又白色ナルモノハ其品質良好ニシテ一箇ノ賣價四仙一箱七十連入ニテ四弗四拾仙一箇ノ重量ハ八兩ナリト云フ  
各製造所ニ於ケル利益ハ原價ノ五割ニ當ル由ニテ頗ル好況ヲ呈シ將來若シ右製造所ニテ化粧用石鹼ヲ製造スルヲ得ルニ至レハ其利益又少ナカラサルヘシト云フ

三、家具製造業

近來清國ニ於テ西洋家具ノ使用日ニ増加スルニ從ツテ當地ニ於テモ此等家具ノ製造ニ從事スルモノヲ生スルニ至リ就中花牌樓唐森々一資本數萬ヲ有シ現時頗ル好況ナリ

四、靴下製造業

「タオル」ニ次キテ賣行ノ良好ナルモノハ靴下ニシテ清人ハ上下ノ差別ナク靴下ヲ使用セサルモノナキヲ以テ本品モ亦本邦輸入品中數量ニ於テ最多ヲ占ムルモノナルカ數年前ヨリ之レカ製造ノ有利ナルヲ稱スルモノ少ナカラサリシカ昨年五月頃上海ノ獨逸商人ニシテ靴下製織機ヲ當地ニ販賣ニ來リ某官吏之レヲ八十兩ニテ購入シ工女ヲ僱ヒテ之レカ製織ニ從事セシメタルモ製品粗雜ナル上ニ精練ノ法ヲ知ラサルヲ以テ體裁頗ル惡シク價格亦不廉ナリシカハ更ニ賣行ナキヲ以テ全ク失敗ニ歸シタルカ近來ハ此機械ヲ以テ支那婦人ノ靴下製造ヲ考案シタルカ纏足セル彼等ニハ一種特別ノ形狀ヲ要スルヲ以テ本品ノミハ外國品ニ優リ其賣行頗ル宜シト云フ

尙又近來烏打帽子ノ需用少ナカラサルヲ以テ开ガ手内職ヲナスモノ少ナカラス尤モ學生帽、軍人帽ノ如キハ專ラ清國ニテ製造スルモノナレトモ靴下製造業及帽子製造業ノ如キハ將來外國品ノ輸入ヲ防止スルニ至ルヘキハ尙ホ「タオル」ノ現狀ニ徴シテ明カナル事實ナリトス

五、人力車製造業

人力車製造業ノ當地ニ起リタルハ既ニ久シキ以前ニシテ目下城内外ヲ通シテ大約五十餘軒ノ多キニ上リ南京ニ於ケル人力車數ハ四千餘臺ニ上ルヲ以テ其需用修理ノ如キ頗ル多額ヲ占ムルモノナルカ其製品ハ頗ル粗雜ニシテ一等車二十四弗二等車二十弗三等車十六弗ニシテ今三等車ヲ標準トスル時ハ木材ハ安徽省ヨリ輸入シ一臺ニ付八九弗ヲ要シ鐵材ハ上海漢口等ヨリ來リ約五六弗其外布衣ハ米國ヨリ輸入シ漆ハ土產ヲ使用シ之ニ二三弗ヲ要スト云フ

近來清國人ニシテ自用車ヲ備付クルモノ大ニ増加シ其製品ハ皆日本品ニシテ六七十弗ノ所一箇年二三千弗ノ賣行アルモノナルカ年ト共ニ清國人ニ於テ人力車ノ製法ヲ改良シ漸次ニ良好ナルモノヲ製スルニ至ラハ本邦輸入品ニ及ホス影響少ナカラサルヘシト思ハル

六、白墨製造業

當地ハ學校極メテ多數ナルヲ以テ白墨ノ需用尠ナカラサルモノナルカ湖北人呂勉之及鄭（兩江師範學堂通譯）ナルモノカ此ノ製造ヲ企畫シ小規模ニテ製造ヲナシタルモ原料ノ甚タ貴キ爲メ外國品ニ壓倒セラレ其賣行甚タ面白カラスト云フ

丙、銀行業

裕甯官錢局ハ當地評事街ニアリ總辦方政管理ノ下ニ各省ニ亘リテ四十八箇ノ分行ヲ有スル銀行ナルカ其資本額及ヒ内部ノ事情ニ至リテハ一朝一夕ニシテ之ヲ探知スルヲ得ス本局ハ拾元、五元、一元等ノ紙幣ヲ發行シ居レリ  
元來當地ハ大商業地ニアラサルヲ以テ他ノ開港地トノ間ニ爲替ノ取組極メテ少キヲ以テ當地ニハ清國大銀行ノ設立ナク舊來ノ錢莊業ニテ爲替ノ取組ヲナシ居ルモノナルカ今左ニ主ナル各錢莊業ノ資本額ヲ示サシ

寶善源	合資會社	壹百餘萬兩	李府巷
和大銀行	本年成立	八十餘萬兩	評事巷
唐源	合資會社	七十餘萬兩	承思寺
厚生豫	合資會社	七十餘萬兩	坊口

鼎泰 私立 五十餘萬兩 三山街  
 裕源祥 私立 五十餘萬兩 坊口  
 生昌 私立 三十餘萬兩 水西門

四、此等企业ニ對スル外國資本輸入ノ有無及方法

ナシ  
 五、清國ニ於ケル内外人合同事業特ニ日清合辦企業ノ現況及將來

六、清國自營ノ企業ノ本邦産業ニ及ホス影響

甲、機械工業

(イ) 銅元局

銅元局ニ於ケル銅貨鑄造高ノ多少ハ直接我國ヨリ輸入スル銅及燃料タル石炭ニ甚大ノ影響アリ最近十箇年間ニ於ケル當港銅ノ輸入ハ左ノ如クニシテ實ニ一昨年ニ於テハ本品ノ輸入額貳百餘萬兩ノ多額ニ上リ輸入品中ノ主位ヲ占メタリシカ昨年四月鑄造停止以來本年度ニ至リ大ニ其輸入ヲ減シタリ

年次	外國品		日本品		合計
	自一月至三月	自四月至六月	自一月至三月	自四月至六月	
一九〇九年	五〇	六	一、九〇五	一、九〇四	六、一九一
一九〇八年	二〇九	六五八	一、九〇六	一、九〇七	九二、六〇八
一九〇七年	五八八	一八、六九〇	一、九〇七	一、九〇七	三一、七一九
一九〇六年	三一四	二七、三五三	一、九〇八	一、九〇八	三五、〇七二
合計	一一、〇三三	二七、〇〇三	一、九〇八	一、九〇九	三九、二二一

千九百〇年前半季ト最四箇年間半季トノ比較

年次	外國品		日本品		合計
	自一月至三月	自四月至六月	自一月至三月	自四月至六月	
一九〇六年	一四、〇三八	一一、九六五	一、九〇八	二、四一八	一五、九三四
一九〇七年	七、二七一	一七、〇八二	一、九〇九	二、四三三	一七、五
合計	二一、二五九	二九、〇四七	一、九〇八	二、四五一	四〇、二二〇

即チ昨年上半年ニ於テハ尙ホ見越輸入トシテ四萬擔ノ輸入アリシモ本年ハ前年ノ二十分ノ一ニ過キス

(ロ) 機器局

機器局ハ數年前盛ニ「モーゼル」銃ヲ鑄造シタル事アリシヲ以テ當時ハ鐵ノ輸入頗ル多カリシカ同局事業ノ失墜ト共ニ同品ノ輸入モ亦左ノ如ク減少セリ

年次	外國品		日本品		合計
	自一月至三月	自四月至六月	自一月至三月	自四月至六月	
一九〇九年	一、九一五	一、九〇三	一、四二二	一、九〇七	一、四二二
一九〇八年	八四	一、九〇四	一、三九五	一、九〇八	一、三九五
一九〇七年	八七五	一、九〇五	一、三九五	一、九〇八	一、三九五
合計	二、八七四	三、七一三	四、一〇六	四、一〇六	八、四〇〇

機器局ノ現狀ヨリ考フルモ到底外國品ノ輸入ヲ防止スルニ至ルカ如キ盛況ヲ見ルニ至ルヘシトハ思ハレヌ且ツ又其備付機械ハ皆數十年前ノ舊式ノモノナルヲ以テ新ニ資本ヲ投シテ新機械ヲ購入スルニアラサレハ將來大ニ發展スヘシトハ思ハレヌ

(ハ) 火藥局

火藥製造ノ原料タル硫黃ハ日本ヨリ輸入スルモノナレトモ其額僅ニ百餘擔ニ過キヌ又同局一箇年ノ生産額ハ參拾六萬擔ニ上ルト雖モ此額ノミニテハ到底江南全部ノ需用ニ應スル能ハサルヘク尙ホ幾分上等ナル外國品ノ輸入ヲ免レヌ

(ニ) 南洋印刷局

南洋印刷局ニ於テハ目下主トシテ官用紙ノ印刷ニ從事シ居ルヲ以テ未タ我國出版ノ教科書類等ニハ何等ノ影響ヲ見スト雖モ漸次其規模ヲ擴張スルニ於テハ從來上海若クハ日本ニ依頼シタル印刷物ハ全部此地ニ於テ印刷セラル、ニ至ルヘシ

乙、手工業

(イ) 絹織物業

當地ニ於ケル絹織物ハ全ク外國品ニ壓倒セラレ極上等ノ品ニアラサレハ土産ヲ使用スルモノナク綢緞業ハ年々減少ノ傾向アリ又當地ニテ製織スルモノハ輸出ニ適セス專ラ支那内地ノ需用ニ應スルノミ

(ロ) 團扇製造業

團扇ハ當地名産ノ一ナルモ品質製作共ニ杭州産ニ及ハス價格ニ於テハ極メテ小額ナルモ其輸出額ハ年々増加ノ傾向アリト雖モ近來漸次本邦産ノ賣行良好トナレリ  
今左ニ最近十箇年間ノ輸出額ヲ示サン

一九〇九年	七三、八二五	一九〇三年	一四、二二八	一九〇七年	二四九、七六七
一九〇〇年	一九〇、六三一	一九〇四年	一〇〇、八三三	一九〇八年	四五一、一八九
一九〇一年	三四、八五七	一九〇五年	二〇、七三一		
一九〇二年	一三、六三〇	一九〇六年	五一、三二九		

(ハ) タオル

需要額 南京地方ニ於テ「タオル」ノ需要額ハ年々増加ノ傾向アリテ其一箇年間ノ總需要額ハ目下少キモ二萬ダースヲ下ラサルヘク本邦ヨリノ輸入額ハ左ノ如シ

年	一月至三月	三月	三月	四月	四月	四月	四月
自一月至三月	三二八〇	三	九	〇	一	二	
自四月至六月	六、〇七七	三	九	〇	一	二	
自七月至九月	五、九九一	三	九	〇	一	二	
自十月至十二月	三、一四四	三	九	〇	一	二	
額	一八、四九二	二二、三五六	二五、九六二	二五、九六二	二五、九六二	二五、九六二	二五、九六二

以上ニ示スカ如ク「タオル」ノ輸入額ハ三箇年前迄ハ年々増加ノ傾向アリシニ拘ハラズ一昨年ト昨年トハ大差ナク且ツ本年度

ニ入りテハ俄然其半額ニ減少シタルハ之レ全ク清國製品ノ外國品ヲ防止シタルニ歸因ス

清國製品ト本邦製品ト比較スルニ清國品ハ晒ノ不充分ナル爲メ其色上ケニ於テ本邦品ハ清國品ヨリ遙ニ絲數多クシテ織目ノ密ナルニ拘ハラズ重量ハ却ツテ之カ十分ノ六七位ニシテ使用上頗ル便利ナリ又清國品ノ重量多キハ横絲ノ毛長キニ過クルモノニシテ何レニシテモ日本品ノ精巧ナルニ如カサレトモ價格ノ點ニ於テ約二割ノ差異アリテ清國品中目下賣行宜シキ一尺一寸モノハ一ダース八十八仙一尺モノハ六十八仙二尺四寸モノハ二弗ニ販賣セリ

然レトモ清國人ノ機戸ハ其需用ノ最モ旺盛ナル夏季ニ於テ却ツテ製織ヲ停止スルヲ以テ此時期ニ於テハ日本品ヲ購入スルモノ多シ以上列記ノ清國品ノ缺點ハ年々改良進步ヲ見ルニ至リタルヲ以テ數年後ニハ清國品ノ賣行本邦品ヲ凌駕スルニ至ルヘク現ニ南京ニ於ケル日本商人モ亦清國品ノ却ツテ賣行良好ナルヲ悟リ自ラ絲ヲ日本ヨリ購入シ之ヲ機戸ニ託シ相當ノ賃金ヲ支拂ヒテ製織セシムルモノ少ナカラス又以上本品ノ前途ヲ知ルニ難カラス

(ニ) 石 鹼

南京製造ノ石鹼ハ皆洗濯用ナルヲ以テ輸入ノ化粧用石鹼ニハ何等影響ナク年々左ノ如キ輸入増加ヲ示セリ

一九〇九年	三、〇五八	一九〇三年	一〇、三九九	一九〇七年	二一、二九六
一九〇〇年	七、〇六八	一九〇四年	八、七二三	一九〇八年	二八、三四七
一九〇一年	二二、二一三	一九〇五年	一一、一〇六		
一九〇二年	一一、二八二	一九〇六年	一八、五四〇		

七、結 論

將來ニ於ケル南京ニ就キテハ世已ニ定論アリ今此ニ喋々スルヲ要セスト雖モ近來清國各地ニ於テ利權回收ノ目的ヲ以テ機械工業ヲ企圖スルモノ少ナカラサルカ當南京ノ如キハ津浦鐵道竣成後ニ至テハ兎ニ角今日ノ處ニテハ工業企畫上第一材料ナク第二石炭ノ産出ナク第三廣大ナル消費地ヲ後方ニ有セサルヲ以テ企業ニ適セス



## 第六 長春ニ於ケル利權回收ニ基ク各種企業及保護政策ニ對スル報告

(明治四十二年一月七日在長春領事松村貞雄報告)

### 一、清國政府又ハ人民ノ自營ノ工業及銀行

未タ官營ノ工業ト稱スヘキモノナク又人民自營ノ工業トシテモ特ニ記スヘキモノヲ見ス若在來清商ノ工業ヲ探查スルトキハ燒鍋(燒酒釀造)油房(豆油豆糟製造)其他製紙業、煉瓦製造業等アルノ外別ニ特筆スルニ足ルモノナシ而シテ官又ハ自營ノ銀行モ只本年四月ニ至リ大清銀行吉林分行ヲ當地ニ設立シ銀行諸般ノ業務ノ取扱ヲ開始シタルモノ、外東三省官銀行分號及ヒ吉林官錢局分局アルモ前者ハ一ニ軍需金ノ取扱ヲナシ後者ハ吉林永衡官錢局發行ノ官帳流通ノ利便ヲ計リ其取扱ヲナスニ止マリ未タ以テ官立銀行ト稱スヘカラス

### 二、官民合同ノ企業又ハ政府ノ特別保護ヲ受クル清國人自營ノ企業

本項記載ノ兩種ノ企業ハ當地ニ於テ未タ之ヲ見ス

### 三、上記企業ノ成立日時種類企業組織(個人企業合資合名株式組織等)會社ニアリテハ其定款其生産品ノ販路其事業ノ成績及將來ノ見込

目下處本問ニ應スヘキ何等ノ企業ヲ見ス

### 四、此等ノ企業ニ對スル外國資本輸入ノ有無及方法

近來稍ヤ日本人ニ結ヒテ企業ノ計畫ヲナスモノアルニ至レルモ未タ實際ニ顯ハレタルモノナク又外國人ノ資本ヲ利用セルモノアルヲ見ス

### 五、清國ニ於ケル内外人合同事業特ニ日清人合辦企業ノ現況及將來

未タ内外人合同ノ事業アルヲ見ス只日清人合辦トモ見ルヘキハ當地ニ其工場ヲ有スル廣島日清燐寸株式會社ノ一アルノミナ

ルモ資本總額三十萬圓ニ對シ清人ハ僅々四萬圓ノ持株ヲ有スルニ止マリ其性質ヨリ見ルモ日本ニ於ケル株式會社ノ株式一部ニ清國人カ加入シタリト云フニ止マリ且ツ會社ノ重役以下使用人ニ至ル迄悉ク日本人ヲ使用シ居ル有様ナレハ日清合併ノ事業ト稱スヘカラサルモ今日ノ成績ハ頗ル良好ナリ

六、清國自營ノ企業ノ本邦産業ニ及ス影響

未タ何等ノ企業ナキニヨリ本邦産業ニ及ホス影響ナシ

第七 湖南ニ於ケル利權回收熱ニ基ク各種企業及保護政策ノ調査

(明治四十二年十一月五日附在長沙領事館事務代理林書記生報告)

一、清國政府又ハ人民ノ自營ノ工業及銀行

清國政府ノ營業スル工業ハ當地ニナク只銀行ニ於テ大清銀行ノ一アルノミ  
當地人民自營ノ工業名稱左ノ如シ

- 醴陵 磁業製造公司
- 長沙 和豐火柴公司
- 同 華昌煉錫公司
- 同 湘裕煉錫公司
- 同 大成煉錫公司
- 同 保利煉錫公司
- 同 誠信煉錫公司

又人民自營ノ銀行左ノ如シ

湖南商錢局、蔚泰厚、蔚豐厚、蔚盛長、天成亨、日盛昌、新泰厚、百川通、大德通、協同慶、裕通源、裕恒盛、同豐成、義源泰、同升恒、裕源長、義豐祥、此外二等錢業ニ屬スルモノ二十一軒、三等錢業ニ屬スルモノ五十軒アリ

二、官民合同ノ企業又ハ政府ノ特別保護ヲ受クル清國人自營ノ企業當管内ニ於ケル官民合同ノ企業ハ江西省袁州府萍鄉縣安源ニ於ケル萍鄉煤礦局ノ一アルノミ政府ノ特別保護ヲ受クルモノハ右萍鄉煤礦局及和豐火柴等ニシテ共ニ製品ノ輸出ニ對シ釐金ヲ免除セラレ居レリ

三、右中主ナル企業ノ成立時日、種類、企業組織、生産品ノ販路、事業ノ成績等左ノ如シ

名稱	成立時日	種類	組織	生産品ノ販路	事業ノ成績	將來ノ見込	備考
大清銀行支店	光緒三十五年一月	銀行	株式會社資本金四百萬兩	湖南内地ノ需要ニ應ズ	目下相當ハ皆無ナレドモ當地商業界ニハ勢力及信用アリ	次第ニ發達ノ見込アルモノ、如シ	公信第四八號
禮隆磁業製造公司	明治三十九年	陶磁器製造	株式會社資本金二十萬弗	湖南内地向ノ需要ニ應ズ	七分ハ清國三分ハ日本ノ製造高七百餘弗ナリ	漸次需要ノ増加アルモエ次第ニ發達ノ見込アリ	公信第七四號
和豐火柴公司	光緒二十二年	硫黃燐寸製造	合資會社資本金六萬兩	湖南内地向ノ需要ニ應ズ	一日ノ製造高二十噸ナリ	將來著シキ發展ヲナスヘシトハ思ハレサルモ次第ニ製造高ヲ増シツ、アリ	公信第二七號
華昌煉錫公司	宣統元年一月	アンチモニー煉	株式會社資本金六萬兩	製成品ハ漢口ノ洋商ヲ經テ輸出ス	一日純錫二噸ノ精煉ヲ行フ	洋式爐ヲ備付タル爲メ純錫ヲ煉出シ得富ナル湖南ノ原料ト相俟チ有望ナリ	公信第七一號
大成煉錫公司	光緒二十四年	同	合資組織資本金五萬兩	同	一日十噸内外ノアンチモニーヲ粗煉ス	舊式爐ニテ硫化アンチモニーヲ煉出スルモノナレバサシテ發達スヘシトモ思ハレズ	同
保利煉錫公司	光緒三十四年	同	合資組織資本金二萬兩	同	一日六噸ノアンチモニーヲ粗煉ス	同	同
湘裕煉錫公司	光緒二十二年	同	合資組織資本金四萬兩	同	一日六噸ノアンチモニーヲ粗煉ス	同	同
誠信煉錫公司	光緒三十四年	同	漢口嘉利洋行支店	製成品ハ漢口ノ本店ニ送付ス	一日約二噸ノアンチモニーヲ粗煉シ漢口本店ニテ純錫ニ再煉ス	本店ト相俟チ發達スヘキモ當地ニ當精煉所ヲ有スルハ有利ナリ	同
湖南商錢局	宣統元年	銀行業	株式會社資本金十萬元	大部分ハ漢陽鐵工所及大冶鐵山ニ送り其地ヲ湖南内地及外商ニ賣渡ス	銀行一般ノ業務ヲ行ヒ湖南中信用アリ	漸次當地商業ト相俟チ發達ノ見込アリ	同
萍鄉煤礦局	光緒二十三年十一月	石炭採掘及コークス製造	官督商辦資本金八百萬兩	製成品ハ漢口ノ本店ニ送付ス	一年採掘高五十萬噸洋式採掘ニテ成績佳良	年一年ト其規模ヲ大ニシ居レバ將來有望ナリ	公信第五五號

四、右企業ニ對スル外國資本ハ萍鄉石炭鑛ヲ除キテ他ハ之ナシ同鑛ニハ個人貸付ノ名義ニテ一二國ノ外資入り居レリト稱セラル

五、内外合同ノ企業ハ當地ニ於テ絶エテ之レヲ見ス

六、清國自營ノ企業カ本邦産業ニ及ホス影響ヲ見ルニ左ノ如シ

- 一、燐寸ニ於テ和豐公司製出ノモノハ專ラ硫黃燐寸ニ限り且ツ日本安全燐寸ト競争ヲ避ケ價格モ廉ニシテ主ニ内地ニ向ケ供給シ居レハ日本製品トハ全ク別途ノ供給ヲナシ居ルモノト云フヘシ但シ本邦品ハ價高ケレハ主ニ都市ノ上流者間ニ用ヒラレ同公司製品ハ價ノ廉ナルカ爲メ專ラ下流社會ニ用ヒラル、ト見ハ大差ナシ
- 二、煉錫業ニ於テハ本年華昌公司ニテ洋式爐ヲ備付ケ純錫ヲ製出セシ以來多少本邦ヘノ粗煉「アンチモニー」ノ輸入ハ減少セシモノト思惟セラル何トナレハ從前ハ當地ノ粗煉アンチモニーヲ買受ケ純錫ヲ作りタルモノモ本公司設立以來其事業ノ發達ト共ニ次第ニ純錫ノ輸出ヲ減少スヘケレハナリ
- 三、萍鄉石炭ハ主トシテ漢陽鐵工場、大冶鐵山、當地及漢口ノ汽船業者及製造公司ニ供給シ居ルモノナルヲ以テ本邦產品ト、ハ何等直接ノ影響ナシ

附 錄

其一 湖南鐵道ニ關スル件

(明治四十二年十月二日附在長沙領事館事務代理外務書記生林善一報告)

湖南鐵道股東共濟會ノ設立目下約一哩ノ築土ヲ完成シタリ

湖南前商務總會々員ハ過般借款問題ノ起ルヤ利權回收ノ爲メ湖南鐵路公司ノ株主救濟ニ勉メ股東共濟會ヲ設立シ八月初旬ヨリ株券五百弗ノ所有株主ヲ集メ開會スル所アリシカ最近ノ集會ニ於テハ會長ニ當地有名ナル紳士潭延闈ヲ副長ニ童光業ヲ擧ケ尙ホ幹事數人ヲ選ミテ益々事務ノ進捗ヲ期セリ

鐵路工事現狀ハ先ツ長沙株州間ヲ急速ニ築成スヘキ決議ニヨリ目下北門外一哩新開河ノ入口ニ近ク停車場ヲ築キ土工數百人

ヲ使役シテ約二清里和豐洋火公司ノ傍マテ築土工事ヲ進メタリ

## 其二 長沙ニ於ケル電燈會社計畫ニ關スル件

(明治四十二年二月廿六日在長沙領事高洲太助報告)

當地ニ於テ曩ニ外國人ノ電燈業ヲ營マントスルノ計畫アリシカ事業ノ性質上獨占ノ意味ヲ含ムヲ以テ市民ノ反對ヲ招致シ未  
タ何等着手スルニ至ラザリシカ此度陳佩珩ナルモノ自ラ之ヲ計畫シ以テ外人ノ機先ヲ制セント計リ已ニ巡撫ノ許可ヲ受ケタ  
ルヲ以テ直ニ會社設立章程ヲ編シ株式ヲ募集シ始メタルカ官民共ニ贊成者頗ル多ク目下發電所ノ建築及ヒ發電機購入ノ設計  
成レリト云フ

## 其二 長沙電燈公司株式募集之件

(明治四十二年八月二十日附在長沙領事館事務代理外務書記生林善一報告)

湖南省長沙ニ於テ電燈公司設立ノ計畫ハ其後着々進行シ目下株式ヲ募集シツ、傍ラ土地ノ選定及ヒ器械購入ノ約定ヲ締結ス  
ルノ運ニ至レリ其ノ已ニ決定セル事項ニ就キテ見ルニ本公司ハ有限責任會社ニシテ資本金洋銀二十萬弗之ヲ二千株ノ株式ニ  
分チ壹百弗ノ株券ヲ正株(六株)拾弗ノ株券ヲ小株トシ更ニ株券二千弗ヲ有スル者ニハ別ニ紅株一株ヲ與フルノ規定ナリ而シ  
テ發起者ハ陳文璋(故江蘇巡撫ノ弟)李達璋及饒祖榮ニシテ株式ノ募集モ大方終リシヲ以テ目下土地ヲ長沙南門外銅元局ノ隣  
地ニ選シ發電機ハ獨商瑞記洋行ヨリ六箇月以内受渡ノ契約ニテ「シーメンツ」會社製最新直結式ノモノヲ三臺買入シ併セテ電  
燈十六燭光ノモノ壹萬「アーク」燈四十箇ヲ購入スルノ約定ヲ締シタリ未タ器械ノ据付ニハ從事セサレトモ一切ノ設備ハ四五  
箇月以内ニ完成スヘシト云フ尙ホ本公司ハ電燈業ノ外其動力ヲ使用シ諸機械及船舶ノ修繕ヲモ營業トスル計畫ナリト云ヘト  
未タ容易ニ信スヘカラス今左ニ本公司ノ株式募集章程ヲ譯載シ參考ニ供スヘシ

## 湖南電燈股份有限公司招股章程

第一條 本公司ハ電燈ヲ創辦シ利權ヲ保全スルヲ以テ目的トシ湖南電燈股份有限公司ト稱ス  
本公司ハ總テ商法ノ規定ニ據リ業務ヲ執行シ撫部院ノ批准ヲ經テ開設ス

第二條 本公司ハ機械ヲ購入シ工場ヲ設置スルニ要スル資金餘剩ヲ生スル計畫ナルヲ以テ夜間電燈ヲ點スルノ外晝間電力ヲ  
供給シ以テ餘力ナカラシム故ニ日中汽船鐵道各種機械ノ製造修繕ヲ兼業シ以テ電力ノ消耗ナカラシメ利源ノ擴張ニ資ス

第三條 電燈開設ノ一事ハ本公司再三研究スル所ニシテ計畫齟齬スルノ虞ナシ故ニ先ツ蒸汽汽罐ヲ購入シ且ツ新式電球及吊  
燈器十六燭光ノモノ共ニ壹萬箇並ヒニ各式大小「アーク」燈ヲ購入シ以テ官商宴會ノ用ニ供ス

第四條 電燈ノ利六アリ(一)火災ノ患ナシ(二)價格石油ニ比シ低廉ナリ(三)洋燈ヲ用ユレハ「ホヤ」及ヒ傘時々破壊シ且ツ舶  
來セル燈心ヲ用ヒサルヘカラス從テ其費用多シ然レトモ電燈ヲ用ユレハ決シテ此費用ナシ(四)洋燈ハ一人手ヲ要スルコト  
多シ然レトモ電燈ハ自カラ明滅シ此煩累ナシ(五)洋燈ハ石油ヲ用ユルヲ以テ惡臭ノ瓦斯ヲ發生シ呼吸スルニ從ヒ身體ニ害ア  
リ然レトモ電燈ハ此瓦斯發生ノ憂ナク空氣モ清潔ナレハ從ツテ最モ衛生ニ便ナリ(六)電燈ヲ用ユレハ石油ノ販路ヲ著シク減  
少シ從テ利權ヲ挽回スヘシ今試ミニ電燈ト石油トノ價格ヲ左ニ比較シ參考ニ供セン

中形笠式洋燈每壹斤壹十二兩入ノモノ午後六時ヨリ點火シ十二時ニ至リテ消シタリトスル時ハ此石油消費量十五兩ニシテ時價九十餘文ニ當ル又三號空氣洋燈  
油壹石油十二兩入ノモノヲ用ヒ午後六時ヨリ點火シ十二時ニ至リ消火セリトセハ此油量九兩ニシテ時價九十五六文其他種ノ洋燈モ石油ヲ用ユルモノハ皆此類ナ  
リ然ルニ電燈ヲ用ヒ午後六時ヨリ十二時ニ至リ消火セハ十六燭光ノ電燈每個銀二分ニシテ空氣洋燈ニ比シ費用ヲ節スルコト多ク笠式洋燈ニ比シ費用ヲ省クコ  
ト一倍ニ止マラス

第五條 本公司ハ皆二三同志ノ熱心設立ニ係リ深ク自ラ力薄ク重任ヲ負フニ足ラサルヲ恐ル依ツテ公平ニ選舉ヲ用ヒ商務ニ  
通曉スル株主數人ヲ選ヒテ董事(我國ノ取締役ノ如キモノ)ニ類シ會社一切ノコトヲ支配及監理ス)トナシ且ツ工業ニ精通シ加  
フルニ電氣學ニ造詣アル人ヲ選シテ總監工トナス有ユル司事及ヒ工役人等ハ皆發起人カ董事及總監工ト會商シテ選用シ以テ

慎重ヲ昭カニス

第六條 本公司未設ノ間ハ暫ク假ニ商務總會ヲ以テ董事局トナス是レ發起者諸氏ハ皆商界中ノ人ナルヲ以テ必スシモ他ニ假事務所ヲ設クルノ必要ナク之レ一ニ冗費ヲ節スルノ主旨ニ出ツ

第七條 工場敷地ハ已ニ南門外ニ一地ヲ租定シタリ此地四隣空地ニシテ火災ノ患ナシ且ツ湘江河岸ヲ距ル咫尺ノ間ニアルヲ以テ將來機械運送及ヒ石炭ノ上下シニ便利少ナカラサルヘシ其材料齊備スルヲ俟ツテ工場建築ニ着手スヘシ

第八條 本公司ハ公益ノ爲ニ起リシモノナレハ決シテ不公益タルコトヲ得ス同志ノ諸氏ハ現ニ洋銀貳拾萬弗ヲ以テ資本金トシ分ツテ整股及ヒ零股(小株)ノ二種トシ壹百弗ヲ以テ整股トナシ拾弗ヲ以テ零股トナシ合計貳千股ノ株式組織ナリ而シテ其内貳千弗ノ股ヲ所有スル者ニハ別ニ紅股壹箇四千弗ノ股ヲ所有スルモノニハ紅股貳箇ヲ與フ株券ノ所有者如此遞加セハ惟紅股ニノミ餘利ヲ分チ官息(資本利子)ヲ計算セス

但シ本條ニ紅股ヲ與ルモノハ一人ヲ指セルモノニシテ二人合同シテ二千弗ノ株券ヲ有スルモ紅股ヲ與ヘラル、ノ權利ナシ第九條 株券ハ優先及普通ノ二種ニ分ツ優先ハ一千株ヲ四箇月ヲ限り截止スルモノ普通ハ一千株ヲ七箇月ヲ限りテ截止スルモノ而シテ優先普通ノ兩株共ニ一年八厘ノ利子ヲ附ス閏月ハ計算セス其紅股ニ對シ利子ヲ按シ分配スル外別ニ二割ヲ以テ優先株ニ對スル報酬トナス但シ此ノ優先株ノ報酬ハ五箇年ヲ過クレハ普通株ト一律トス

第十條 株主ノ株金ヲ拂込ムハ本公司人ヲ派シテ受取ラシムルノ外ナホ各確實ナル商店ニ托シ代納セシメ以テ株主ヲシテ近キニ就キ株金ノ納付ニ便ス而シテ本公司ハ拂込金ニ對シ領收證ヲ發スルト共ニ期ニ照シテ利息ヲ計算シ株式利息簿ノ出來ヲ俟ツテ更ニ領收證ノ旨ヲ新聞紙上ニ廣告シ以テ憑信ニ資ス

第十一條 株券二千弗以上ノ所有者ハ董事ニ舉ケラル、ノ資格ヲ有ス其選舉ヲ經テ董事ニ舉ラレ公司ニ至リシ後ハ總理ト商議シテ事務ヲ執ルヘシ但シ少數カ多數ノ意見ニ雷同シ固執黨爭スルナカラシム若シ公司ニ有益ノコトアラハ即チ株券ノ多寡ニ係ラス均シク其意見ヲ提出シ決議ヲ開キ以テ策ヲ研キカヲ集ムルノ効ニ資ス

第十二條 本公司株券ノ利息ハ毎年二月利息簿ニ照シテ支拂ヒ平時ハ豫メ支拂ヲナサス

第十三條 本公司獲ル所ノ純利ハ分ツテ十五分シ一分存シテ積立金トナシ工場ヲ擴メ機械増加ノ用トシ一分半ヲ以テ發起人ニ均分シ一分半ヲ以テ事務員ノ報酬トス而シテ殘餘利益ノ九分ヲ以テ株主ノ利益トシ二分ヲ以テ優先株主ノ報酬ニ當ツ

第十四條 本公司ハ每年末總勘定ヲ行ヒ收支ノ項目利益ノ多少ヲ印刷シ株主ニ配布ス之レニ依リ公司當局者及株主ヲシテ公司内部ノ凡テヲ知ラシメ意見ノ杆格ナカラシム

第十五條 株券所有者ニシテ都合ニ依リ株券ヲ他ニ轉賣セントスル者ハ先ツ公司ニ通告シ株主名簿及株券名義ノ變更ヲ請求スヘシ株券名義變更ハ一件毎ニ手数料銀參錢ヲ請求人ヨリ收ムヘシ但シ株券ハ外國人ニ賣渡スヲ得ス

#### 其四 湘潭電燈公司設立計畫ノ件

(明治四十二年九月一日附在長沙領事館事務代理外務書記生林善一報告)

長沙ニ於ケル電燈公司設立ト前後シテ湘潭ニ於テモ同公司設立ノ計畫アリテ目下着々進行中ニアリ發起人ハ元ト福建省ノ道臺タリシ黎景高外五名ニシテ資本金洋銀十五萬元之レヲ一萬五千ノ株式ニ分チ一株ノ金額ヲ洋銀拾元トス而シテ工廠ニ供スル機械ハ皆獨逸「シーメンツ」會社製ノモノニ係リ獨商瑞記洋行ヨリ已ニ右機械購入ノ約定ヲ訂シタリ本公司カ目下設立ニ困難ヲ感シツ、アルハ長沙ニ於ケル電燈公司ノ發起人カ電燈ヲ以テ自家ノ專業ニ歸セシメントノ野心ヨリ湖南商務總會ト連合シテ其設立ノ登錄ヲ妨害シ認可ヲ與ヘサルニアリシヲ以テ本公司ノ發起人等ハ此困難ニ屈伏スル所ナク直接北京農工商部ニ設立書ヲ提出シ認可ヲ得ヘク運動中ナリ本公司ノ發電機器ハ已ニ獨商ノ引受ニ歸セルカ電線全部ハ日本商人ヨリ供給スヘキ契約締結セラレタリ

## 第八 四川ニ於ケル利權回收熱ニ基ク各種企業及保護政策ニ關スル報告

(明治四十二年十一月三十日附在重慶領事館河西事務代理報告)

近年清國各地ニ於テ利權回收論上下ニ勃興シ排外思想行ハレ其結果内國工業ヲ保護スルノ政策ニ出テ土貨振興ノ名下ニ清國人自營ノ企業ヲ起シ漸次外國貨物ヲ清國市場ヨリ排斥セントスルニ汲々タルハ何人モ疑ヲ容レサルトコロナリ當港ノ如キモ光緒三十年十二月二十八日當地有力者相謀テ十八箇條ヨリ成ル重慶商務總會章程ナルモノヲ作成シ總督ノ許可ヲ得商業會議所即チ商會ヲ創立シ機關雜誌ヲ發行シ各般ノ新智識ヲ鼓吹シ大ニ實業上ノ發展ヲ計リ内國企業ヲ保護シ利權回收ノ實ヲ全フセンコトニ努力セリ今其ノ章程ノ内容ヲ見ルニ該條中保護商權ノ項ニ於テ「中外條約ヲ查スルニ商權ハ華洋一體ナルヲ現今華商ハ本國ヲ阻礙スルコト甚シク常ニ洋商ノ招牌即チ名義ヲ借り以テ商業上ノ權利ヲ得ルヲ便宜トセリ是レ洋商ノ權ヲ増大ニスルモノニシテ利權ヲ回收スルノ意ニ反スルヲ以テ爾後如斯コトハ大ニ之ヲ注意スヘシトアリ又興製造業ノ條ニ於テ「粗製品ハ之ヲ加工精製スレハ價格ヲ増加シ且運送ノ便アリ故ニ歐人ハ深く他國ノ生産地ニ入り粗製品ヲ買集シ之レヲ加工シ能ク商利ヲ博セリ近來稅關表ヲ見ルニ常ニ輸入ハ輸出ニ超過セリ是レ坐シテ商利ヲ失スルモノナリ元來四川省ハ產物ニ豊カニシテ其ノ輸出ハ何レモ粗製品ニシテ是等輸出品ハ加工精製品トシテ再ヒ當國ニ輸入セラレ商利ハ空シク外人ノ手ニ奪ハルニ至ルハ殊ニ遺憾ナルヲ以テ爾後法ヲ設ゲ大ニ製造業ヲ興シ之レカ回收ノ道ヲ講セシムルハ可カラス」トノ各項アルヲ以テ見テモ如何ニ當地人ノ近年利權回收ニ熱シ自國工業ヲ保護シ外國產貨物ヲ清國市場ヨリ排斥セントスルニ汲々タルカハ之ヲ推知スルニ足レリ而シテ之レカ利權回收即内國工業保護政策ノ意味ヲ以テ生レ出タルモノハ第一勸工局之レナリ同局ハ光緒三十一年ニ開設セラレ工業界ノ指南車トモ稱スヘキモノニシテ種々ノ工藝品ヲ製造シ傍ラ徒弟養成所ヲ設ケ漸次工業ノ改良發達ヲ普及シツ、アリ近年當勸工局ニ於テ製造スル器具ヲ見ルニ其工藝大ニ進歩シ或ル物ハ下江ヨリノ輸入品ニ劣ラサルノ觀アリ是等器物ハ漸次其ノ輸入ヲ防止スルニ至ラン而シテ其實行モ亦良好ナルヲ以テ將來發達ノ見込アリ又成都ニハ總局ア

リテ明治三十七年本邦金細工師、塗物師、蒔繪師、製紙技手等ノ各職工ヲ雇ヒ來リ大ニ徒弟ヲ養成シ當省各般ノ工業ヲ獎勵セシカ其結果競フテ各地モ之レカス業ノ改良ヲ促スニ至レリ目下成都勸工局ニハ實業試驗所ヲ設ケ本邦陶磁器燒窯工手一名ヲ聘シ居レリ如斯一方各地ニ勸工局ヲ起シ他方勸工會即チ勸業共進會ヲ設ケ各地勸工局ノ製作品ヲ陳列シ互ニ優劣ヲ比シ短ヲ補ヒ長ヲ採リ以テ斯業ノ改良ヲ計レリ而シテ之レカ勸工會ハ毎年成都ニ開會セラレシカ次年ヨリハ當地ニモ開會セントノ準備中ニシテ已ニ川東道三十六屬勸業會章程ナルモノヲ發刊セリ當地勸工局ノ資金ハ當地慈善事業ノ一ナル粥廠ト稱スル毎年正月貧民ニ粥ヲ供スル爲メ費セシ資金ヲ轉用シタルモノナリ勸工局ノ好成绩ヲ見タル當地官憲ハ更ニ幼穉工廠及貧民工廠ヲモ設立シタリ幼穉工廠モ亦一種慈善の事業ノ變化シタルモノニシテ主ニ貧民兒童ニ職ヲ與ヘン爲メ設立セラレタルモノニシテ籐椅子、鐵器、支那靴業工作品ヲ製造シ乞巧工廠(後貧民工廠ト改名ス)モ亦勸工局ト同シク粥廠ノ資金ヲ轉用シタルモノニシテ貧民ヲ收容シ織物類及木器、銅器等ヲ製造シ其ノ製作品モ比較的廉價ニシテ賣行又良好ナリ而シテ是等勸工局及工廠ノ設立以來市場ニ於ケル一般工作品ノ進歩シタルコトヲ見ルコトヲ得ルハ是レ其ノ獎勵ノ結果ニヨルモノナリ

二、玻璃廠即チ硝子製造所ハ當地ニ十一箇所アリ其起業ノ由來ヲ尋ヌレハ殆ント四十二年前廣東人始メテ一製造所ヲ開創セシモノニシテ其當時ハ有利ノ事業ナリシカ爾後數箇所ノ製造所ヲ増加セシカハ獨占的ノ利益ヲ見ル能ハサルニ至レリ是等製造所中大ナルハ鹿蒿公司ニシテ江北廳城外ニアリテ光緒三十四年開設セルモノニシテ當時本邦技手三人ヲ聘シ專ラ玻璃器製造業ニ從事セリ該公司主ハ曾テ本邦ニ留學シ玻璃製造ヲ研究シタルモノニシテ洋燈、屋根硝子及窓硝子、「ゴブ」類其他種々ノ色付及色模様入ノ硝子器ヲ製造セリ本年成都共進會ニ是等製造器ヲ出品セシカ大ニ好評ヲ博シ一等賞ヲ得タリ當地新聞紙ノ如キハ大ニ其ノ事業ヲ賞賛シ利權回收ノ一端トナセリ目下賣行甚タ良好ナリ當地ノ如キ交通不便ナル土地ニ於テ玻璃ノ如キ破損シ易キモノヲ輸入スルハ困難ナルヲ以テ是等玻璃公司ノ發達スルト同時ニ下江ヨリノ輸入ヲ減少スルニ至ラン而シテ是レカ原料ハ附近ニ產出スル「シリカ」石灰礬石ヲ使用シ販路ハ主ニ當城內ニシテ上流下流ノ各市場ヘモ輸送セリ今左ニ最近ニ於ケル當港玻璃輸入ノ稅關表ヲ示シ參考ニ資セン

三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年
一、五九八	一、二六七	一、一四四	二、一五九	二、一〇三	二、四五五	一、二三七	一、〇〇一

三、燐寸製造所、當地ニ於ケル燐寸製造所ハ六箇所アリ内二箇所ハ本邦商ノ經營ニ係リ一箇所ハ獨商ニシテ他ハ清商ナリ就中森昌泰ハ最モ古ク創設セラレ其ノ當時ハ賣行良好ニシテ充分ナル商利ヲ博セシカ近來同業者ノ増加シタルニ從ヒ互ニ競争シ價格モ下落シ爲メニ一時大恐慌ヲ來セシカ遂ニ一方法ヲ案シ總督ニ立案シ總公司ナルモノヲ組織シ當地ニ於ケル斯業ノ製造企業ヲ制限シ燐寸價格ヲ一定シ之ヲ總公司ニ買上ケルコト、ナレリ當地製造ノモノハ何レモ硫黃燐寸ニシテ普通安全「マツチ」ニアラサルナリ是レ硫黃燐寸ハ其製造容易ニシテ且價格低廉ナルト當地風土ノ安全「マツチ」ヲ使用スルニ適セザルニ由ルモノナリ是レカ爲メ主要輸出品タル本邦燐寸ノ輸入モ當港ニハ甚タ少量ニシテ唯タ小數ノ在留外國人又ハ上流清國人間ニ需要セラル、ノミニシテ普通清國人ノ使用スルモノハ極メテ稀ナリ然ルニ當港ニ於テ製造スル硫黃燐寸ハ四川省ハ勿論貴州雲南等ニ廣ク供給セラレ將來ト雖モ亦益々其ノ販路ヲ擴張スルニ至ラン而シテ是等製造ニ供スル材木原料ハ合州附近ヨリ產出スル松ヲ使用セリ硫黃ハ土產ノモノヲ用キ間々本邦品ヲ用ユルコトアリ燐、膠等ノ原料ハ主ニ英獨產ニシテ上海ヲ經由シ輸入セラレ燐寸箱製造ハ製造所附近貧民ノ内職ナリ而シテ是等工場内ノ工人ハ重ニ婦女子ニシテ排機即チ軸列、箱詰及包封等ニ從事セリ

四、燭川電燈有限公司、上海電燈公司ノ外資ヲ輸入シ當港ニ一電燈會社ヲ創立セントスルノ舉アルヲ聞知シタルヤ當地有志者相謀テ是レカ發起トナリ窃ニ機先ヲ制シ專ラ利權回收ヲ標榜シ當地地方官及商務局ノ贊成ヲ經テ昨年清歷五月燭川電燈有限公司ナルモノヲ組織シ資本金貳萬兩ニシテ十六燭光ノ燈球一千個ヲ有スル小會社ニシテ其ノ需要數僅ニ二百八十餘個ニ過キサリシカ近來同會社ハ前途ノ見込ヲ立テタルモノカ事業ヲ擴張シ之レヲ三十萬元ノ株式會社トセントシ六萬株ヲ募集セントセリ未タ新機器ハ到着セサルモ技手ハ已ニ到着セリ技師ハ米國人一名ニシテ毎月給料五百兩ナリト云フ已定ノ電燈料ハ十六燭光終夜(八時間)一個ニ付一箇月壹元五拾仙、八燭光七拾五仙、四燭光四拾仙ニシテ「メートル」用ハ十六燭光一時間ニ付

七厘八燭光三厘五毛、四燭光壹厘八毛ナリト當地ノ如キ其發電燃料ニ供スル石炭ノ廉價ニシテ且ツ交通不便ノ爲メ石油ノ高價ナル土地ニアリテハ當地人ノ電燈ノ利便ヲ悟ルニ至ラハ又有望ノ事業ナラン

五、官商合辦川江輪拖有限公司、在上海佛商東方輪船公司ノ兩三年前宜昌重慶間ニ航業ヲ開辦セントシ之レカ特權ヲ得ントシ頻リニ運動ヲ試ミ居ルノ報傳播スルヤ四川商鑛總局ハ大ニ之レカ警戒ヲナシ自ラ佛國ニ先キ立チ航權ヲ得ント欲シ一昨四十年夏同局總辦周善培ハ當港ニ來リ英國軍艦ニ搭乘下江萬縣ニ至リ航路ノ視察ヲ遂ケ後當港ニ官商合辦川江輪拖有限公司ト名クル一汽船會社ヲ創設シ資金ヲ二十萬兩一株四十兩トシ株券五千ヲ發行シ内二千株ハ官ノ特株トシ三千株ハ民間ヨリ募集スルコト、セリ株金ハ第一回二十兩ヲ拂込ミ殘二十兩ハ事業ノ成功ヲ見テ拂込ムコト、ナセリ同公司モ排外ヲ主趣トシテ創設スルニ至リ當地人ハ利權回收ノ一端ト爲シ可ナリノ應募者アリタルヲ以テ英國「ソニークロフト」會社ニ注文シ曳船ヲ製造シ本年十月二十七日無事當港ニ着シ目下當港ニ淀泊セリ該汽船ハ長百十五呎幅十五呎深六呎六吋喫水三吋速力十五節機關ハ連成汽機二基雙暗車ニシテ七百馬力汽罐ハ水管式壓力百四十磅ニシテ貨物及船客ハ曳船ニ積載セラレ上等室ハ上層ニアリテ左右ニ分レ各四室アリ一室ニハ上下二段ニ分チ二個ノ寢臺アリテ合計十二人ノ上等客ヲ載スルコトヲ得ルナリ食堂ハ浴場ノ反對側即前方ニアリ下層ハ下等客室ニシテ四列トナシ上下二段ニ分チ合計六十四個ノ鐵網ノ吊リ寢臺アリ下等客室ノ下部ハ艙庫ニシテ綿糸三百捆ヲ積載シ得ト云フ同汽船ハ湖北省沿岸ノ民船業者ニ於テ航路開始ノ反對ヲ受ケ爲メ目下四川總督ト湖北總督トノ間ニ交渉問題トナレリ未タ解決ヲナサス何時之レカ航行ヲ開始スルニ至ルヤ豫知シ難キモ多分來春ニ至ラサレハ實際航行シ能ハサルヘシトノ風評ナリ

- 六、四川鐵路公司、四川鐵道會社ハ光緒三十年開辦セラレシカ同鐵道株金ノ種類ハ
  - (一) 一般人民ヨリ入株スルモノ
  - (二) 田畑ノ收穫ヨリ毎年百分ノ三ヲ入株セシムルモノ
  - (三) 官金ヲ以テ入株スルモノ

(四) 本會社特別事業ノ利益ヲ以テ入株スルモノ、四種ニ分チ各地ニ鐵道支局ヲ設ケ株金募集ニ當レリ光緒三十年開辦ノ當日ヨリ三十四年五日ニ至ルノ間ノ實收入金ハ庫平銀七百五十七萬五千七百八十九兩餘ニシテ各州縣支局用費、利息(株金募集規則ニ都テノ株金ハ拂込ノ翌月ヨリ年利四分ヲ付スルコト、定メタリ)鐵道研究留學生費、鐵道測量費工兵ノ月給等ノ諸費用ニシテ成都重慶宜昌ノ三箇所ニテ支出セシモノ七十四萬三千四百五十六兩餘ニシテ成都重慶宜昌上海ノ四箇所ニテ殘金六百八十一萬二千九百三十九兩餘ヲ存セリト光緒三十一年以後ハ年收入約三百餘萬兩ノ豫算ニシテ之レニ年利四分ノ利子ヲ仕拂アラテ收入金ハ各商店及其他ニ貸付ケ利殖ヲ計レリ其ノ主ナルハ戒烟總局ノ二十萬兩製革公司ノ四萬六千三百三十萬兩濱川源官銀行ノ二萬兩湖北水泥廠ノ二萬兩商務局紙廠公司ノ一萬八千〇八十兩ニシテ其他重慶銅元局ニ二百二十二萬六千六百九十二兩餘ヲ轉用シタルモ同局中止サレタルヲ以テ二百十萬七千三百〇四兩餘ハ返却サレ尙不足一萬九千三百八十八兩餘アリト云フ前述セル如ク資金ノ收得募集額五千萬兩ノ十分ノ一ニモ達セス而シテ此ノ長距離ニシテ且險峻ナル山岳ヲ開キ布設セントスル川漢鐵道資金ハ果シテ其宣言ノ如ク外資ヲ輸入セスシテ内資ヲ以テ之ヲ完成スルヲ得ルヤ否ヤ頗ル疑問ニ屬セリ以上ハ重慶ニ於ケル工業保護政策ノ狀況ヲ述ヘタルモノナルカ尙ホ更ニ進ンテ左ニ成都其他ニ於ケル工業上ノ狀況ヲ述ヘン

成都ニハ老機器局及新機器局トノ二局アリ老機器局ハ數年前ニ設立セラレ銅銀貨及銃器ヲ鑄造スル傍ラ機械製造ニ勉メシカハ漸次工業上使用ノ機械類ヲモ製造スルニ至ラン新機器局ハ二年前設立セラレシモノニシテ一時獨逸人四人ヲ聘シタリ製革公廠(現ト稱セリ)ハ製革事業ヲ營ミ三十七年之ヲ組織シ本邦製革師、靴師、靴師ヲ聘シ一方製革ヲナシ靴、靴、ラングセイル等ハ專ラ軍隊用トシテ盛ニ供給シツ、アリト云フ當地ニモ同公廠ノ製作品市場ニ現ハレ居ルモ未タ外國品ニ及ハサルナリ然レトモ漸次改良進步スルニ從ヒ外國輸入皮製品ヲ防壓スルニ至ラン目下本邦製革師一人靴師一人ヲ聘シ居レリ雲南ニモ錫總督赴任以來軍需品製造ノ目的ヲ以テ陸軍製革廠ヲ組織シ本年十月本邦技手三人ヲ聘シ來レリ成都ニ於ケル官報局ハ三十八年以來本邦技手ヲ聘シ印刷事業ニ當ラシメ大ニ四川ニ於ケル斯業ノ改良ヲ促セリ目下事業ノ成績良好ニシテ將來ハ益々有望ナラン洛德肥農官廠ハ石鹼製造業ヲ營ミ本邦技手一名ヲ聘シ居レリ其他四十一年六月製紙公司ニ本邦技手一名ヲ聘シ來リシモ



經濟上ノ都合ニヨリ本年九月解約歸國セシメタリ尙ホ目下本邦人ノ當方面ニ於ケル實業學堂ニ聘セラル、モノヲ舉クレハ成都中等工業學堂ニ五人何レモ各工業上ニ關スル專門ノ學ヲ授ケ其他農業學堂ニ一人鐵道學堂ニ一人商鑛實業學堂ニ一人アリ貴陽農林學堂ニ一人雲南農業學堂ニ二人アリ近來本邦ヨリ招聘セラル、教習中ニハ是等實業學堂ニ來ルモノ多ク且ツ本邦ノ留學生モ亦實業上ノ學校ヲ卒業シ歸國スルモノ多キヲ以テ見ルニ如何ニ當省方面ノ工業上ノ新智識ヲ得ントスルニ汲々タルカヲ知ルコトヲ得ルナリ然シテ是レカ實業上新智識ヲ得タル人才ヲ輩出スルノ曉ハ大ニ實業上ノ發展ヲ見ルニ至リ排外思想ハ具體的ニ實現スルニ至ラン

以上ハ四川方面ニ於ケル工業上ノ狀況並ニ其保護政策ニ關シ陳述シタルヲ以テ更ニ進ンテ本邦及各國ノ企業ノ概況ヲ述ヘ比較對照ノ資ニ供セン

前述セル如ク排外熱ノ勃興スル今日ナルヲ以テ未タ外資ノ輸入ヲ仰クモノヲ聞カサルト共ニ外人トノ合同企業ヲ見サルナリ英華合同江北煤鐵有限公司ハ當地方ニ於ケル唯一ノ外人トノ合同企業トシテ名高カリシカ清曆本年五月江合公司ト改名シ清國人ノミノ經營ニ歸スルコト、ナレリ如斯内外合同事業ハ不振ナルモ清國商ニシテ自カラ出資シ條約國ノ掛牌即チ名義ヲ借リ以テ間接直接ノ便宜ヲ得ントスルモノアリシカ近來次第ニ此ノ風ヲ滅セリ而シテ當港ニ於ケル外國商ハ一般自己ノ經營スル事業ニ好成績ヲ舉クル能ハス未タ成功者ノ見ルヘキモノヲ聞カサルナリ今最近聞キ得タル當港ニ於ケル各國商ヲ舉クレハ英國商ニハ英美公司(光緒三十三年開辦、烟草販賣商、外國人監理ス)永年保壽公司(光緒三十一年開辦、一英人之ヲ監理ス生命保險業)永明保壽公司(光緒三十一年開辦、生命保險業)隆茂保險洋行(光緒二十二年開辦、山貨輸出商並ニ保險業、英人監理ス)慶源洋行(光緒三十三年開辦、山貨輸出商)太古洋行(光緒十六年開辦、運送業即滙行)公泰洋行(光緒十六年開辦運送業即滙行)怡和洋行(光緒十六年開辦、運送業即滙行)德維一(光緒三十四年開辦、雜貨商)立德同(光緒二十二年開辦、玻璃製造所並ニ雜貨商)アリ佛國商ニハ利源洋行(「メリケン」粉、洋酒及其他ノ雜貨商、光緒二十八年開辦)義昌洋行(光緒二十一年開辦、佛國人監理ス、洋酒類並ニ雜貨商及山貨輸出商)アリ米國商ニハ美孚洋行(光緒二十年開辦、石油商)勝家公(光緒二十三年

司(光緒三十三年開辦、機器商)アリ獨逸商ニハ瑞記洋行(光緒二十五年開辦、獨逸人監理ス、豚毛及其他ノ山貨輸出商)美最時洋行(宣統元年開辦、獨逸人之ヲ監理ス、山貨輸出商)禮和洋行(光緒三十四年開辦、獨逸人監理ス、器械及時計商)豐茂洋行(光緒三十二年開辦、山貨輸出商)元亨洋行(光緒三十四年開辦雜貨商)惠利火柴公司(光緒三十年開辦、燐寸製造業)等ナリ次ニ本邦商ニ在ツテハ有燐公司ハ燐寸製造業ヲ營メリ製造高一箇年二千八百箱賣上高重慶銀四萬一千六百兩資本金額重慶銀四萬兩ナリ東華公司モ亦燐寸製造業者ニシテ製造高一箇年二千七百二十箱賣上高一箇年重慶銀三萬九千五百四十三兩資本金額重慶銀三萬兩ナリ福記洋行ハ牛羊皮、黑豚毛、繭、漆蜡、五倍子、木茸等ノ山貨輸出商ニシテ賣買高一箇年重慶銀十萬兩資本金額重慶銀一萬兩ナリ聚福洋行ハ山貨輸出商ニシテ一箇年賣買高重慶銀參拾九萬兩ニシテ資本金額重慶銀壹萬兩ナリ新利洋行ハ輸出入業ヲ營ミ一箇年賣買高重慶銀十五萬兩資本金額邦貨二萬圓ナリ若林大藥房ハ日本雜貨及賣藥商ニシテ一箇年賣買高重慶銀二萬元ニシテ資本金重慶銀二萬元ナリ日清汽船會社重慶出張所ハ運送業ヲ營ミ取引高一箇年重慶銀約一萬五千兩餘本店資本邦貨八百十萬圓ナリ大和洋行ハ雜貨學校用品及賣藥等ノ輸入業ヲ營ミ一箇年賣買高重慶銀一萬九千兩資本金重慶銀五千兩ナリ瑞華洋行ハ賣藥商ニシテ一箇年賣買高重慶銀二萬一千二百二十六兩〇八分資本金邦貨一萬二千四百七十四圓ナリ前述セル如ク外國商殊ニ本邦商ハ資金ヲ自ラ投シ健全ナル商業ヲ營ムモノ少ナク未タ何等發展ヲ見サルニ一方清國人ハ上下一般利權回收ヲ標榜シ工業上ノ保護政策ヲ取ラントシ外資ヲ排斥シ合同ヲ退ケ種々ノ企業ヲ起シ外人ヲ聘シ長ヲ取リ短ヲ補ヒ外ニハ留學生ヲ派遣シ内ニハ人才ヲ養成シ以テ斯業ノ改良ヲ計ラント汲々タリ抑モ四川省ハ當港貿易表ノ示ス如ク天然ノ產物ニ豐富ニシテ豚毛、羽毛、麻、黃牛及水牛皮、熟皮、藥種、麝香、五倍子、大黃、紅花、黃生絲、野蠶絲、繭、屑絲及屑繭、山羊毛皮、白臘、羊毛等ノ土貨粗製品ノ輸出夥シク殊ニ工業上最モ必要ナル石炭ハ省内到處ニ產出シ人口稠密ニシテ勞力ニ乏シカラサルヲ以テ其ノ工業ニ適スルコト疑ナキモ未タ斯業ノ振ハサルハ交通ノ不便ナルニ歸スルヤ大ナリト雖モ起業上投資スルモノ少ナキニ因ルハ亦與ツテカアルモノ、如シ

尙當方面ニ於ケル企業狀況一覽ノ便ニ供セン爲メ左ニ表ヲ掲ケン



内ヲ限リ第一回拂込トシテ參元ヲ徵收シ拂込ノ翌月ヨリ毎月七厘ノ利子ヲ附シ殘額二元ハ機械到達ノ時ヲ俟ツテ拂込マシメ前キニ拂込ミタル領收證ト引換ニ本株券ヲ交付シ其月ヨリ年一分ノ利子ヲ附シ每年末ニ之レヲ支拂フ筈ナリ今其設計豫算ヲ見ルニ即チ左ノ如シ

設計豫算

電燈總數十六燭光球三萬個

一、參 萬 元	汽灌六部 設置費
二、四 萬 元	但每部五百馬力ニシテ五千球ヲ點スル効力アルモノ
三、貳 萬 元	發電機及帶皮六部設置費
四、六 萬 元	但每部五千球ヲ點シ得ル効力アルモノ
五、參 萬 元	ポンプ、吸水管、火力表、水表、蒸汽表一切ノ雜器具費
六、壹千五百元	燈球及附屬品六萬個費
七、七 萬 元	送電驗表器三千個代
八、參 萬 元	電柱用磁瓶及螺釘其他ノ費用
九、七 千 元	總線百五十清里
十、壹 萬 元	但シ城内六道ヲ繞通スヘキ距離
	小線即チ分線及屋內線共
	電線柱三千本
	地ナラシ及家屋修繕費
合計二十九萬八千五百元	

其點燈料ハ十六燭光終夜(八時間)一個ニ付一箇月壹元五拾仙八燭光七拾五仙、四燭光四拾仙、ニシテ「メートル」用ハ十六燭光一時間ニ付七厘、八燭光三厘五毛、四燭光壹厘八毛ナリト該設計ニヨレハ清國官衙及街燈ノ供給ヲ見込ミタルモノ、如ク當地方ノ如キ勞力燃料ノ安値ナル點ヨリ打算スル時ハ高價ナル石油(一箱四元貳拾仙)ヲ使用スルヨリ寧ロ便利ナルヲ以テ繁華ナル店舗ニ於テ豫期ノ如ク需用者アルニ於テハ優ニ利益ヲ獲ル計算ナレトモ當地方ノ現況ヨリ觀察スル時ハ右三十萬元ノ株券應募者ヲ得ルニ容易ナラサルヘシト思考セラル近來四川ニ於ケル總テノ事業家ハ頻リニ利權回收ヲ唱道シ外資輸入ニ絶對ニ反抗スル有様ニテ苟モ四川ニ於ケル諸事業ハ自力ヲ以テ之レヲ經營セントスルニアリ已ニ張之洞ノ契約ニ係ル川漢鐵道ノ外資協約成タリト傳フルヤ當地方人ハ直チニ之レヲ四川省内ノ鐵道ニ迄應用スルモノト誤認シ一時物議ヲ醸シ後該資金ハ湖北迄ノ敷設費ニ充ツルモノナルヲ論サレ始メテ首肯シタル如キ亦今回ノ電燈事業ニ於テモ株券ヲ外人ニ譲リ渡スヲ嚴禁シタル如キ如何ニ當地方人ノ排外熱ニ冒サレ居ルカ想像スルニ難カラズ去レハ現時ニ於テ當省ニ外資ノ輸入又ハ外人ノ事業ヲ企圖スルコトハ至難ニ屬スルヲ知ルヘシ然レトモ四川省ハ如何ニ清國各省中豐富ノ地ナリト雖モ自省ノ富ヲ以テ自ラ之ヲ開發スルノ能力アリヤ否頗ル疑問ニ屬スルノミナラス假シ外省ノ富ヲ輸入シテ之レカ資ニ供セントスルモ各省、各分擔アリ自營ニスラ猶ホ不足ヲ告クル今日ニ於テ斯ル山奥迄投資スル者少ナカル可キハ亦想像スルニ難カラサルナリ去レハ現下ノ趨勢ヨリ觀察セハ當省ノ排外熱ハ一年ト其發展ヲ遲緩ナラシメ當地方ノ發達ニ至大ノ妨害ヲ蒙ムルニ至ルヘシ

## 第九 汕頭地方ニ於ケル利權回收熱ニ基ク各種企業及保護政策ノ調査

(明治四十二年十一月二十五日附在汕頭領事德丸作藏報告)

當汕頭地方ニ於テモ近年著シク利權熱勃興シ獨リ政治ニ關スル方面ノミナラス苟モ幾分公共ヲ意味スル事柄ハ都テ利權熱ニ依リ支配セラレ居ルモノ、如シ然レトモ當地方ニ於テハ此風潮カ産業上ニモ波及セントスルノ事實ハ更ニ之ヲ發見スルヲ得サル也蓋シ當地方ハ原來工業地ニアラスシテ單純ナル農業地ナルカ故ニ産業上ニ於テハ此ノ風潮ヲ感セサルモノナラン特ニ當地方ハ南洋各地ヘノ出稼移民毎年五六十萬人ヨリ七八十萬人ノ多キニ達シ彼等カ送付シ來レル勞銀ハ以テ地方ノ購買力ヲ維持シ當港貿易カ毎年倍數以上ノ輸入超過アルニ拘ハラス能ク地方ノ經濟ヲ維持シ居ルモノナルカ故ニ今後トモ容易ニ外貨排斥ノ風潮ヲ生スルコトハアラサルヘシ廣東地方ニテハ屢々土貨獎勵外貨排斥ヲ唱導シタレトモ當地方ニテハ曾テ此ノ聲ヲ聞カサル所以モ亦之カ爲メ也

前述ノ如キ狀態ナルカ故ニ示達ノ各事項ニ就テモ殆ト報告スヘキ事實アルナシ試ニ各項ニ就テ略述スレハ左ノ如シ

- 一、清國政府又ハ人民ノ自營ノ工業及銀行

當地方ニ於ケル清國人民自營ノ工業トシテハ豆粕製造所二箇所アルノミニテ銀行ハ支那式銀行二十八家アリ而シテ其内ニ俗ニ官銀行ト稱スル即チ官廳ノ資本ニテ成レル支那式銀行三家アリ但シ是等ハ從來ヨリノモノニ係リ利權熱ニ依リテ興リタルモノニハアラス

- 二、官民合同ノ企業又ハ政府ノ特別保護ヲ受クル清國人自營ノ企業

本項ノ如キ企業ハ當地方ニ於テハ絶無ナリ隨テ第三第四ノ二項ニ該當スル事實ナシ

- 五、清國ニ於ケル内外國人合同事業特ニ日清合辦企業ノ現況及將來

當地方ニ於ケル日清合辦企業ハ勿論内外人合同事業モ絶無ナリ但シ潮汕鐵道ノ成立及其營業ニ就テハ本邦人ノ關係淺カラサ

リシカハ來同會社ハ本邦人トノ關係ヲ絶タント爲シ居ルモノ、如シ是レハ實ニ利權熱ヨリシテ生シタル地方ノ壓迫カ會社ヲシテ此ノ傾向アルニ至ラシメタルモノナリ

六、清國自營ノ企業ノ本邦産業ニ及ホス影響

當地ニ於テハ本邦産業ニ影響ヲ及ホス如キ清國自營ノ企業ナシ但シ砂糖製造ハ當地地方ニ於ケル最大ノ産業ナレトモ其製造ハ農家ノ個人的營業ニシテ散漫微力ナルノミナラス近來ハ漸次衰微ニ傾キツ、アルカ故ニ目下ノ處ハ本邦ノ糖業ニ影響ヲ及ホス如キ恐ナシ

第十 沙市地方ニ於ケル利權回收熱ニ基ク各種企業及保護政策ニ關スル調査

(明治四十二年十二月四日附在長沙片山事務代理報告)

一、清國政府及人民ノ自營ノ工業及銀行

工業

沙市 政府ノ經營ニ屬セルモノナシ而シテ人民ノ自營ニ至リテハ前キニ荊州ニ織布局アリテ綿布ヲ織リ居タレトモ遂ニ去四十年廢業ヲ見ルニ至リ續テ昨年之ヲ沙市ニ移シ大規模ノ工場ヲ起スノ議アリタルモ是レ亦立消トナレリ  
現ニ本地ニ於ケル工業トシテハ製油業九家ト郊外ニ煉瓦製造所一所アルノミニシテ其規模大ナラス右ノ外荊州ニ駐防八旗ノ設立ニ係ル工藝廠ナルモノアリテ綿布ヲ織リ居レトモ機臺モ僅二十臺位ナルノミナラス又織布ニ從事セルモノ殆ント寥々ニシテ有名無實タルニ過キスト云フ  
宜昌 北門外ニ清人張姓ノ織布工場アリ組織公司ト稱シ機臺百餘臺ヲ有シ一時隆盛ヲ極メ事業ノ擴張ヲ圖リ居タリシモ合資者タル傅丁臣(宜昌鎮總兵)死去後ハ業務ニ阻礙ヲ來タシ目下休業中ナリ又外ニ城内ニ一織布所アレトモ資本甚微ニシテ稱スルニ足ラスト云フ

銀行

沙市 官立ノ銀行ナシ而シテ人民ノ自營ニ係ル舊有ノ票號、錢鋪重ナルモノ左ノ如シ  
票號 百川通、新太厚、同義恒、日昇新 德興明 大德恒 聚太成 天成亨 蔚盛長 蔚太厚 蔚成永  
錢鋪 瑞昇 德盛長 源成 義和公 義豐祥 泰豐生 寶豐 慶昌怡 慶昌源  
宜昌 官立ノ銀行ナシ舊有ノ銀號錢鋪重ナルモノ左ノ如シ  
銀號 榮 成 濟川源

錢舖 恒茂祥 鴻盛昌 王萬鎰 興隆公 同榮公 廣生同  
 二、官民合同ノ企業又ハ政府特別保護ヲ受クル清國人自營ノ企業  
 此項ノ企業共ニナシ

但シ沙市ニ於ケル清人等自營ノ事業トシテハ規模最小ナレトモ合利公司ト稱スル小蒸汽船會社アリ右ハ四十一年八月ノ創設ニシテ當時合利亨公司ト稱セシカ間モナク廢業シタルモ亦福利公司ト改稱シテ業務ヲ再興シ今又合利貞公司ト改メ小汽船二隻ヲ以テ毎日沙市宜昌間ノ航行ヲ爲シ沿途各市鎮ニ寄港シ居レリ右ハ資本金二萬兩ニシテ之ヲ株式組織トナシ大株ヲ紋銀百兩トシ小株ヲ二十五兩トシ大株ハ四小株ヨリ成リ居レリ將來事業ノ發達ト共ニ航路ヲ擴張シテ沙市ノ下流ヨリ牽テ湖南地方ニモ及ホス等ナリト云フ目下利益トシテハ別ニ稱スヘキナシ

三、此等企業ノ成立時日、種類、企業組織(個人企業、合資、合名、株式組織等)會社ニアツテハ其定款其生産品ノ販路其事業ノ成績及將來ノ見込

以上ノ次第ナルヲ以テ別ニ記スヘキモノナシ

四、此等ノ企業ニ對スル外國資本輸入ノ有無及方法

前ト同シ

五、清國ニ於ケル内外人合同事業特ニ日清合辦企業ノ現況及將來

目下管内ニ於テ未タ之等事業ノ起レルモノナシ

六、清國自營ノ企業ノ本邦産業ニ及ホス影響

前述ノ如ク管内ニ於テハ清國自營ノ企業トシテ見ルヘキモノナキヲ以テ本邦産業ニ及ホスヘキ何等影響ナカルヘシ

### 第十一 北滿洲ニ於ケル利權回收熱ニ基ク各種企業及保護政策ニ關スル調査

(明治四十二年十二月廿二日附在哈爾濱總領事川上俊彦報告)

北滿洲産業ノ狀態ハ輒近漸ク一般世人ノ矚目ニ値スルニ至リシト雖モ未タ猶農業經濟ノ時期ヲ脱セス從テ目下當地方ニ於テ産出スルモノハ農産物及其加工粗製品ヲ以テ大宗トナス而シテ此等産出物ハ一面當地方方面ニ於ケル一般ノ需要ヲ充タスト同時ニ又直ニ之ヲ海外ニ輸出シ海外ニ於ケル多額ノ需要ニ應ジツ、アリ又當地方ニ輸入サレツ、アル外國商品ハ何レモ殆ト加工精製品ニ屬シ且右土産物ト其種別ヲ異ニスルヲ以テ其間互ニ衝突ヲ惹起スル事ナシ即チ土産物ハ外國商品ノ輸入ヲ排除セサルノミナラス該土産物ノ産出多額ナレハ當地方清國人ノ購買力隨テ増加シ外國商品ノ輸入ハ益々増加スルノ傾向アリ但シ其間一二事項ノ之ニ反スルモノアリ即チ製粉及製糖事業ノ經營之ナリ當地方ニ於ケル製粉業ノ勃興ハ日露戰役ニ際シ軍用麥粉ノ需要甚大ナリシ時期ニアリ從テ平和克復後ハ生産過剩ノ現象ヲ惹起シタル程ニシテ當地方方面ニ於ケル麥粉ノ供給ハ今尙甚シク潤澤ノ域ニアリト云フヘク此方面ニ對スル外國産麥粉ノ輸入ハ到底近キ將來ニ於テ企圖シ得ヘキ事ニ非ス次ニ製糖業ニ至ツテハ最近ノ經營ニ係リ未タ事實ニ於テ其成績ノ見ルヘキモノナキモ而カモ將來專ラ當地方一帶ニ於ケル需要ヲ充タシ外國品ノ輸入ヲ排除スルニ至ルヘキハ明カナリ然レトモ右事業ノ發展カ將來本邦産業ニ對シ左程多大ナル影響ヲ及ホスヘシトハ思ハレサルナリ何ントナレハ現今並ニ將來ニ在ツテ當地方方面ニ於ケル重要且有望ナル本邦産輸入貨物ハ綿布並ニ各種雜貨類ナレハナリ(別紙第六項四十二年本邦産輸入品目錄參照)要之現今北滿洲ハ農産品及其粗製品ヲ輸出シ外國産或ハ内國産ノ加工精製品ヲ輸入スルノ狀態ニアリ而シテ清國人自營ノ工業又ハ企業ニシテ特ニ本邦産業界ニ多大ノ影響ヲ及ホスヘキモノハ現下ニ於テ全然之ナシト謂フヲ得ヘク且將來ニ於テ本邦産貨物ノ輸入カ漸次増加スヘキハ又疑ヲ容レサルトコロナリ

一、清國政府又ハ人民自營ノ工業及銀行

(A) 清國政府又ハ人民自營ノ銀行

(イ) 黑龍江官銀分號

黑龍江官銀總號ハ齊々哈爾ニアリ而シテ目下當地、呼蘭、巴彥蘇々、北團林子、愛渾、長春及營口ノ七箇處ニ各出張店ヲ設置ス當地ニ於ケル同出張店ハ清曆本年九月ノ開設ニ係リ現今預金ヲ取扱ハサルモ(但官金ハ無利子ニテ預カル)貸付、爲替及兌換ノ事務ヲ取扱フ右貸付ハ只大店舗ノ保證ヲ有スル者ニノミ之ヲ行ヒ毎月一分三厘ノ利息ヲ付スルモノトス(委細齊々哈爾帝國領事館報告參照ノコト)店員目下五名アリ

(ロ) 東三省官銀分號

奉天ニ於ケル東三省官銀總號ノ出張店ニシテ本年三月開設セラレタルモノナリ開設ノ當時ハ遠大ノ計畫アリシ如ク見受ラレタルモ其後官場ノ更迭經費ノ不足等ノ爲メニ一頓挫ヲ來シ目下大ニ規模ヲ縮少シ只僅ニ爲替事務ヲ取扱フノミ店員五名アリ

(ハ) 廣信滙兌莊

齊々哈爾ニ於ケル廣信公司ノ出張店ニシテ昨年五月ノ開設ニ係ル當地ニ於テハ只爲替事務ヲ取扱フノミナリ店員四名アリ

以上黑龍江及東三省兩官銀分號ハ何レモ官業ニシテ廣信滙兌莊ハ官民合同ノ經營ニ係ル而シテ一般商賈ハ通常商人自營ノ錢行ニヨルモノ多ク右官立或ハ官民合同ノ金融機關ニ依ルヲ好マサル風アリ從テ何レモ利益ヲ見ルコト稀ナリト云フ

(ニ) 各種錢行

人民自營ノ金融機關トシテハ錢行アリ(當地ニハ押又ハ當舖ナシ)爲替、兌換、金塊買收等ノ事ヲ取扱フ其重ナルモノ左ノ如シ

商	號	資	本	金	所	在	地	商	號	資	本	金	所	在	地
獨	慎		八〇,〇〇〇	圓	哈	爾	資	功	成		二五,〇〇〇	圓	哈	爾	資
會	全		四〇,〇〇〇	圓	同	傳	家	天	興		二五,〇〇〇	圓	同	傳	家
天	成		三五,〇〇〇	圓	同	家	上	世	昌		二五,〇〇〇	圓	同	家	上
會	全		三〇,〇〇〇	圓	同	資	市	永	興		二〇,〇〇〇	圓	同	資	市
和	順		三〇,〇〇〇	圓	哈	爾	資	寶	興		二〇,〇〇〇	圓	同	資	市
	昌		三〇,〇〇〇	圓	同	資	市	昌	合		二〇,〇〇〇	圓	同	資	市

以上各錢行ハ爲替、兌換、金塊買收ノ事ヲ取扱フ

商	號	資	本	金	所	在	地	商	號	資	本	金	所	在	地
同	慶		二五,〇〇〇	圓	傳	家	甸	天	成		一五,〇〇〇	圓	傳	家	甸
德	慶		二〇,〇〇〇	圓	同	上	甸	慶	元		一〇,〇〇〇	圓	同	上	甸
天	豐		一五,〇〇〇	圓	同	上	甸	天	興		五,〇〇〇	圓	同	上	甸

以上各錢行ハ爲替ヲ取扱ハス只兌換及金塊買收ノ事ヲ取扱フノミ

(B) 清國政府又ハ人民自營ノ工業

政府自營ノ工業ナシ

人民自營ノ工業トシテハ製粉業、煉瓦製造業、醬油製造業等アリ

(イ) 製粉業

(一) 磨房

洋式ノ器械ヲ使用スルモノニアラス土法ヲ以テスル製粉所ニシテ當地傳家甸ニ十二戸アリ(當地外當舖管內各地ニ於ケル狀況ハ「北滿洲ノ産業」ニ讓ル)何レモ小規模ノモノニシテ磨盤一個ヲ有スルノミ一日一回作業シ五清斗ノ小麥ヲ以テ百五十清斤ノ麥粉及三十五清斤強ノ穀ヲ製ス此等麥粉ハ單ニ當地土人ノ需用ニ應スルノミ右麥粉ノ相場ハ上等百

清斤三留、下等二留八十哥内外ナリ

(二) 火磨

蒸汽力ヲ使用スル洋式製粉所ニシテ當館管内ニ於テハ當地、阿什河、海林驛並ニ寧古塔城ニ各一個アリ  
當地ニアルモノヲ成發祥火磨公司ト稱シ市外四家子ニアリ山東人張富五ノ經營スル所ニシテ一昨年即光緒三十三年ノ  
開設ニ係ル資本金三萬留、現在使用人員計四拾餘名アリ一日ノ製粉高約八百布度ニシテ販路ハ主ニ黑河、三姓地方清國  
人ノ需要ニ應スト云フ製粉ハ牛印商標ヲ用ヒ品種ヲ二等、三等、四等ノ三種ニ分ツ(一等粉ハ需要少キニヨリ製造セス  
ト云フ)何レモ品質佳ナラス價格ハ一布度ニ付二等粉壹留二十五哥、三等粉壹留二十五哥、四等粉壹留五哥内外ナリ  
阿什河ニアルモノヲ恒發玉火磨公司ト稱ス(目下建築中)前寧古塔副都統慶祿ノ子富湘如ノ經營スル所ニシテ資本銀中  
錢三十萬留使用人員計五拾餘名アリ一日ノ製粉高壹千貳百布度ノ見込ニシテ其販路ハ橫道河子、一面坡附近一帶清國  
人ノ需要ニ應スル計畫ナリト云フ

海林驛ニアルモノヲ裕順和火磨公司ト稱シ寧古塔城揚裕鳳ノ經營スル所ニシテ光緒三十一年ノ開設ニ係ル資本銀中錢  
貳拾萬留使用人員計百十人(內露國人四名)アリ一日ノ製粉高壹千貳百布度ニシテ其販路ハ從來極東露領方面ナリシカ  
目下ハ右地方ニ仕向ケス只橫道河子、一面坡附近一帶地方清國人ノ需要ニ應スルニ止ルト云フ

製粉ノ品種ヲ二等、三等、四等ノ三種ニ分ツ何レモ品質佳ナリ價格ハ一布度ニ付二等粉壹留三十哥、三等粉壹留二  
十哥、四等粉壹留内外ナリ

寧古塔ニアルモノヲ長發祥火磨公司ト稱シ該地人胡某ノ經營スル所ニシテ本年春季ノ開設ニ係ル資本銀中錢五拾萬留  
使用人員計八十餘名アリ一日ノ製粉高約貳千布度ニシテ其價格及需要地ハ前項裕順和火磨公司ト異ナル處ナシ  
從前寧古塔ニハ尙一ノ製粉所興華公司ナルモノアリシカ過般失火シ目下營業ヲ停止セリト云フ

(ロ) 煉瓦製造業

東清鐵道沿線ニ於ケル建築工事ニ從ヒ勃興セシモノニシテ當地附近ニ於テハ三科樹、何家溝ヲ以テ主ナルモノトナス、  
三科樹ニハ五戸何家溝ニハ九戸アリ一戸大抵二個或ハ三個ノ竈ヲ有シ大竈ハ一回煉瓦三萬個小竈ハ一回煉瓦貳萬個ヲ製  
造シ得但シ一回製造ニ付キ約七日ヲ要ス價格ハ煉瓦一千個ニ付キ約七留ナリト云フ

(ハ) 醬油釀造業

當地傳家甸ニ於テ醬油ヲ釀造スルモノハ八戸アリ皆穀物店ノ兼業トスル所ナリ即チ左ノ如シ

商號	資本	商號	資本	商號	資本
東廣和	二,〇〇〇圓	義和興	二,〇〇〇圓	順發公	五〇〇圓
恒順東	三,〇〇〇圓	東順興	二,〇〇〇圓	義發和	五〇〇圓
福昌和	二,五〇〇圓	萬發源	四,五〇〇圓		

價格ハ一等醬油一清斤ニ付五哥、二等醬油四哥半ナリ

販路ハ當地附近ニ止マル

其他個人經營ノ工業トシテハ機房油房染房粉條房等アレトモ何レモ極小ナル規模ニシテ特ニ記述スルノ價值ナシ

▲官民合同ノ企業又ハ政府ノ特別保護ヲ受クル清國人自營ノ企業

▲此等ノ企業ノ成立時日、種類、企業、組織、會社ニアリテハ其定款、生産品ノ販路、事業ノ成績及將來ノ見込

▲此等ノ企業ニ對スル外國資本輸入ノ有無及方法

以上ノ各項ニ關シテハ目下ノ處特ニ記載スヘキモノナシ

(C) 清國ニ於ケル内外人合同事業ノ現況及將來

當地傳家甸對岸ノ馬家船江ニ於テ獨清兩國人共同經營ノ一甜菜製糖所ノ設立サレントスルアリ之ヲ富華製糖公司ト名ツク  
本年三四月頃清國人李聘三(前齊々哈爾交涉總局總理)及王古愚(前長春府知府)兩人ハ當局ノ許可ヲ得兩人各資本金貳拾



萬留(但王古恩ノ據出セル金貳拾萬留ノ内金拾萬留ヲ東清鐵道蒙古驛附近ニアル土地二千畝ノ見積價格ナリ)ヲ據出シ其他北京及奉天ニ於テ募集シタル六拾萬留ヲ合シ合計百萬留ノ資金ヲ以テ前記地方ニ一製糖所ノ設立ニ着手シタリ然ルニ其後漸ク該事業經營ノ經費ニ不足ヲ來シ爲ニ本事業モ殆ト行憊ノ慮ナリシカ當時當地獨逸商「クンストアルベル」ス商會支配人「ベンチン」ナルモノ此機ニ乘シ右李及王兩人ト商議ノ結果金壹百萬留ノ提供(内五拾萬留ハ購入スヘキ製糖器械ノ價格)ト共ニ遂ニ該製糖事業共同經營者ノ一員ニ加ハリシノミナラス該事業經營ノ實權ハ殆ント彼ノ掌握スル所トナレリ今右清獨逸兩國人間ニ取結ハレタル契約ヲ左ニ示サシ

契約書

官吏李及王ト獨逸臣民「フランツ、リキドウキ、コーウキチ、ベンチン」トノ間ニ本契約ヲ取結フコト次ノ如シ(便宜上李及王ヲ甲トシ「ベンチン」ヲ乙トス)

第一條 甲ハ海國政府ヨリ滿洲ニ於ケル製糖所建設ニ關シ獨占權ヲ得タルヲ以テ今回富華公司ナル會社ヲ組織シ哈爾濱ニ近キ松花江左岸郊外ザトニ於テ製糖所建設ニ着手シタリ、本契約ニヨリ乙ハ既ニ甲ノ資金據出ニヨリ準備サレタル製糖所ニ別記ノ機械類ヲ輸入シ且据付クヘキ義務ヲ負フヲ條件トシ甲ハ乙ヲ終身社員トシ甲ノ會社ニ入社セシム、該製糖所其他ノ建設ニ關スル計畫ハ凡テ乙ニ於テ企圖シ乙ハ善良堅固ナル材料ヲ選ミ之ヲ竣成スル事ヲ要ス、器械、建築材料及建設費用ハ相互ノ協議ヲ以テ嚴密ナル検査ヲ行フヘシ、機械据付ニハ十分ノ時日ヲ與ヘ千九百十年秋季迄開業ノ運ニ至ル様準備スヘシ

第二條 甲ハ乙ト本契約取極メノ日ヨリ向フ六箇月以内ニ更ニ乙ト會社細則ニ關スル契約ヲ取結フ事ヲ要ス

(A) 本契約ニ於ケル條項ノ外尙如何ナル事項カ相互ニ取極メラル、ヤ即各社員カ企業ニ對シ幾何ノ資本ヲ據出セシヤ又其企業ヲ支割ト假定シ甲ノ各員カ何割ノ持分ヲ有スルヤニ付正確ニ規定スル事ヲ要ス又建物其他甲カ會社ニ讓與スヘキ財産ノ價格ハ甲聘僱ノ専門家ノ面前ニ於テ評價スヘキモノトス

(B) 該社員ハ本契約ヲ無期限ノモノトシテ取極ムル事ヲ要ス但會社契約締結ノ時ヨリ十箇年經過後ニ於テハ會社事業利益配當ノ關係ヲ定ムルコトヲ得

(C) 甲ハ會社事業ノ管理者トシテ乙ヲ選定ス而シテ甲ハ責任者トシテ會社事業及會計ノ検査ヲナス權利ヲ有ス

(D) 甲ハ乙ノ承諾ヲ經シテ該會社ニ新ニ社員ヲ採用スル事ヲ得ス但甲又ハ乙カ該會社ニ於ケル自己ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡ス場合ニハ相互承諾ヲ得ルヲ要セス

(E) 管理者ハ會社管理上ニ於ケル凡テノ整理裁判及行政事件ニ於ケル處置、各種契約ノ締結、社員ノ黜陟製品ノ販賣ニ付キ責任ヲ以テ之ヲ行フ

(F) 其他右事項ノ外相互承諾ノ上ニ於テ穀物賣買或ハ新製造所新設ノ如キ新事業ヲ經營シ得ヘシ但右ノ場合乙ノ参加セサルトキハ甲ハ之ニ着手スルノ權利ヲ有セス

(G) 該契約ニヨリ甲ハ建設サルヘキ製造所ニ對シ一箇年七萬噸以上ノ甜菜ヲ供給スヘキ義務ヲ有ス該甜菜ハ一割五分以上ノ糖分ヲ含ミ且製造所迄ノ運賃共合計一噸價格(幾何)留ナラサルヘカラス甜菜ハ會社開始前迄ニ準備サレサルヘカラス

(H) 製造所ニ必要ナル流通資本ハ該會社開始ヨリ二箇月以內ニ甲ニ於テ該會社會計係ヘ支給スル事ヲ要ス而シテ乙ハ契約ニヨリ社員ノ承諾ヲ以テ流通資本百萬留迄據出スヘキ義務ヲ有ス乙カ右資本ヲ據出スル場合ハ會社開始ヨリ八箇月以前ニ之ヲ據出スルコトヲ要ス

第三條 本契約締結後直ニ乙ハ機械購入ニ關シ該會社ト某商會トノ間ニ協議ヲ開始スルノ權利ヲ有ス而シテ會社事業ノ爲メニ流通資本支給ニ關シ本社員及株主ノ承諾ニヨリ歐洲資本家ヲ招徠スヘシ

第四條 甲カ若シ本契約ニ違反スル場合ハ甲ハ乙カ會社事業ニ參加シ獲得スヘキ金額ヲ賠償スルコトヲ要ス

第五條 本契約取極メノ日ヨリ甲ハ會社事業ノ管理、會計事務、財産ノ處分、賣上帳及確實ナル證明書ノ管理、社員ノ黜陟及補助員ノ雇傭ニ關スル權限ヲ以テ乙ニ委任ス

支 出

1, 甜 菜	金 額			壹ペルコーウエツニ付			砂糖一布度ニ付		
	留	留	哥	1/100	留	留	哥	1/100	
(1) 甜菜ノ植付ハ製糖所ノ受持トス。地積1,000テシヤチン。 1テシヤチンニ付100ペルコ 100,000ペルコ1ペルコ=1留	100,000								
(2) 清國人ヨリ購入高100,000ペルコ1ペルコ=90哥	90,000								
(3) 甜菜受渡及保存	6,000								
(4) 運賃。積込。積卸(甜菜) 80,000ペルコ 一布度ニ付三哥	28,800								
	224,800	1	12	40	"	64	22		
2, 技術上ノ支出									
(5) 燃料薪 1375クーフ、ノサーセン1クーフサーセン=25留	34,375		17	19		9	82		
(6) 石灰石 168,000布度 1布度=10哥	16,800		8	40		4	80		
(7) 種々ノ麻布	4,250		2	12		1	22		
(8) 砂糖ノ包装袋及手間賃	2,100		10	50		6	00		
(9) 會社ノ點燈料	1,060		"	53		"	30		
(10) 機械ノ掃除料	1,150		"	57		"	33		
(11) 雜 費	4,380		2	19		1	25		
(12) 製産ニ要スル材料	4,260		2	13		1	22		
(13) 使用人労働賃銀	16,680		8	34		4	76		
(14) 機械。動産建物ノ修繕費	15,000		7	50		4	28		
	118,955		59	47		33	98		
3, 經營費									
(15) 社員ノ俸給	40,000		20			11	43		
(16) 事務所ノ費用	2,200		1	10		"	63		
(17) 病院費用	3,200		1	60		"	91		
(18) 馬小屋費用	4,800		2	40		1	37		
(19) 諸費用	18,500		9	25		5	29		
(20) 會社保險料	8,000		4	"		2	29		
(21) 社員ノ宿舍料	2,000		1	"		"	56		
	78,700		39	35		22	48		
製糖業ヨリ得タル利益	587,545	2	93	78	1	67	89		
平 均	1,010,000	5	05	"	2	88	57		

二二九

收 入

1 ペルコーウエツヨリ 仕上見積リ白砂糖平均 七十フンド、スレハ 200,000 ペルコヨリ次 ノ利益ヲ得。 砂糖 350,000 布度 1布度=2留80哥 尙製糖ノ際次ノ利益ヲ 得 カス 1,200,000 布度 1布度=1哥 糖蜜 90,000 " 1,, =20哥	金 額			壹ペルコーウエツニ付			砂糖一布度ニ付		
	留	留	哥	1/100	留	留	哥	1/100	
	980,000								
	12,000								
	18,000								
	1,010,000	5	05	"	2	88	57		
平 均	1,010,000	5	05	"	2	88	57		

次ニ前記ベンチンカー一専門家ヲ聘シテ立テタル該製糖事業經營ノ計畫左ノ如シ  
滿洲ニ於ケル製糖計畫書  
生産額二十萬ペルコウエツノ甜菜製糖所(一晝夜ノ生産額貳千ペルコウエツ)(一「ペルコウエツ」ハ十布度)

フランツ、リュドウキコーウキチ  
ベンチン

王李古愚  
聘

第六條 本契約ハ互ニ遵守スヘク破棄スヘカラサルモノトス  
千九百九年七月廿七日

哈爾濱ニ於テ

二二八

最近三箇年間ニ於ケル試験成績

- (一) ... (一) ...
- (二) 甜菜ノ分析

Bx = 22,83  
 P1 = 20,34  
 HC = 2,49  
 Qual = 89,10  
 Justfr Goone = 18,12

甜菜一ベルコウエツヨリ八十二フント半以上即ニ布度以上ノ白砂糖カ製産セラル此ノ如キ成績ハ歐洲ニ於テ見ルヘカラサルモノナリ

一九〇九年八月

(技 師)

ドンブロフスキー

本年夏期ニ於テ前記共同經營者ノ一人タル王古愚ハ死亡シタレハ其後ハ劉會郷ナルモノ之ニ代レリト云フ  
 該製糖所目下ノ狀況ハ只僅カニ三箇ノ倉庫建設サレタルノミニシテ其他總テノ工事ハ明年春期ニ於テ着手セラルヘク又製糖事業ハ同年秋季ヨリ開始セラル、ニ至ルヘシト云フ

内外人合同事業トシテ目下ノ處只右富華製糖公司アルノミ而シテ日清合辦ノ企業トシテハ當地方未ダ之ヲ見サルナリ

(D) 清國自營ノ企業ノ本邦産業ニ及ホスヘキ影響

目下ノ處本項ニ關シ特ニ記述スヘキモノナシ、依テ左ニ昨四十一年度ニ於ケル本邦産商品ノ當地方輸入總額ヲ掲クルニ止

メン(委細ハ同年度北滿洲貿易年報参照ノ事)

昨四十一年度ニ於ケル本邦産商品ノ當地方輸入總額約百二十萬圓、内本邦人ノ取扱高約五十萬圓、清露其他外國人(主ニ清國人)ノ取扱高約七十萬圓ナリ輸入品ノ主ナルモノハ綿布、石炭及絹物ヲ以テ大宗トナス今左ニ當地在留本邦商ノ當館ニ届出テタルトコロニヨリ之ヲ表示セン

輸 入 品

品 目	數	量	價 格	品 目	數	量	價 格
綿布及同製品		11,010	176,541	醬油、味噌、			3,495
石炭及コークス			44,075	古 麻		13,120	3,193
絹布及同製品			42,301	履 物			3,005
藥劑及實藥			9,696	粧 服			2,519
煙草(管煙)		273	6,705	筆 墨		2	1,247
罐詰食品			5,337	紙 類		2,821	733
罐詰食品			4,361	雜 貨			15,185
酒		8	3,620	合 計			32,201
清酒		8					
麥酒及炭酸水		400					

第十二 遼陽地方ニ於ケル利權回收熱ニ基ツケル各種企業及保護政策ニ關

スル調査

(明治四十三年一月六日在遼陽副領事鈴木要太郎報告)

- 一、清國政府又ハ人民ノ自營ノ工業及銀行  
遼陽官銀號分局                      政府自營
- 豆粕豆油燒酒製造業                      人民自營
- 二、官民合同ノ企業又政府ノ特別保護ヲ受クル清國人自營ノ企業  
皆無
- 三、此等ノ企業ノ成立時日種類企業組織(個人企業、合資合名、株式組織等)會社ニアリテハ其定款其生産品ノ販路其事業ノ成績及將來ノ見込

豆粕豆油製造業

商號	資本	一ヶ年製造高	價格	販路	成立時日	組織
永盛	增一萬四千元	豆油四萬二千斤 豆粕二萬一千斤	一斤小賣一元五分 一斤卸賣一元二角五分	營口大連經由直隸山東上海日本	光緒三十二年正月	個人
利源	合一萬四千元	同	同	同	光緒三十三年四月	合同
永興	合一萬四千元	同	同	同	光緒三十一年	合同
天增	當一萬四千元	同	同	同	光緒十五年四月	個人
長發	泰七千元	同	同	同	光緒三十年六月	合資
增發	德七千元	同	同	同	光緒三十年	合同
日升	東五千七百元	同	同	同	光緒二十七年	合同

義順源	福生永	天利公	慶德隆	公盛源	新和福	日升茂	天增祥	利源德	益升泰	玉陞全
七	一	七	七	七	一	五	一	一	一	二
千	萬	千	千	千	萬	千	萬	千	千	萬
元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二萬五千斤	一萬五千斤	一萬五千斤	一萬五千斤	一萬五千斤	一萬五千斤	一萬五千斤	一萬五千斤	一萬三千斤	一萬三千斤	一萬三千斤
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
宣統元年八月	同	光緒三十三年	光緒三十五年	同	光緒三十二年九月	同	光緒三十三年	光緒三十四年九月	光緒三十三年十月	宣統元年三月
同	個	合	同	同	同	個	合	個	合	個
人	資	人	資	人	資	人	資	人	資	人

銀行

奉天官銀號遼陽分局

該銀行ハ奉天匯支司ニ屬セルモノニテ民間ノ資本ヲ用キヌ又目下貸出ヲナサス光緒三十二年遼陽ニ於ケル錢法改革ノ結果財界ニ未曾有ノ大恐慌ヲ來セル當時是レハ救済上同銀行ニ於テ多額ノ貸出ヲ爲セルコト有リシモ其後財界ノ整理完了スルト同時ニ全ク民間ニ對スル貸出ヲ廢止シ現今ハ僅カニ奉天遼陽間ニ於ケル官金ノ往送ヲ爲スニ過キヌ其額毎年約二十餘萬元ナルヘシト云フ

燒酒製造業者

東升源	利源	隆盛	謙益	永泰	永盛	永泉
三萬五千元	三萬六千元	三萬八千元	二萬八千元	三萬四千元	三萬七千元	三萬七千元
八	五	八	八	同	同	同
百餘石	百餘石	百餘石	百餘石	同	同	同
小賣一石六十五元	小賣一石六十五元	小賣一石六十五元	小賣一石六十五元	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同
光緒三十三年	同	光緒二十三年	同	光緒三十四年正月	光緒三十四年正月	光緒三十四年正月
合	同	個	同	同	同	同
資	人	資	人	資	人	資

以上各製造工業者ニシテ其合資組織ニ屬スルモノハ互ニ貨財或ハ勞力ヲ以テ出資トシ種々ナル利益分配法ヲ定ム而シテ出資者間ニハ大凡ソ左ノ如キ契約ヲ締結スルモノトス

合資契約書(譯文)

嘗テ聞ク二人ハ心ヲ同フスレハ黄土モ金ニ變シ三人協力スレハ泰山モ倒スヘシト是人能ク一致シニ心ヲ生セサレハ商業隆盛トナリ永遠亂レサルノ謂ナリ今我等共ニ資本ヲ提供シテ商業ヲ營マント欲シ本城ニ市房ヲ租借(又ハ買收)シ使用人ヲ僱用シ目下營業ヲ開始セリ然レトモ將來異論猜忌ヲ生スルコトアラハ必ス終始ヲ全フスルコト能ハサル可シ依テ此ニ全然斯業ニ盡力シ異志ヲ抱カサルヲ宣明シ管鮑ノ風陳雷ノ義ヲ重シ將來收支ヲ戒メ各自資金ヲ提供シ三年毎ニ利益配當ヲナスモノトシ以後互ニ誤解ヲ生セサルコトヲ契約ス

年 月 日

出資者一同

四、此等ノ企業ニ對スル外國資本輸入ノ有無及方法

皆 無

五、清國ニ於ケル内外人合同事業特ニ日清合辦企業ノ現況及將來

遼陽ニ於ケル日清合辦事業ニシテ製造工業ニ關スルモノナシ只タ木炭販賣ヲ目的トスルモノニシテ日清合辦ノ一會社アリ  
同會社ハ最近ノ設立ニ屬スルモノニテ現今ノ營業狀態ハ稍順境ニ在ルカ如キモ將來如何ハ之ヲト知スルコト能ハス

六、清國自營ノ企業ノ本邦產業ニ及ホス影響

前項ニ於テ列舉セル清人自營ノ工業ハ當地地方ニ於テ最モ主要ナルモノトス豆油燒酒ハ清人ノ特ニ需要スルモノニテ其ノ多  
クハ他省ニ輸出セラレ豆粕製造ハ近時甚タ盛況ヲ極メ其製造額ノ大半ハ本邦ニ於テ需要スルモノニシテ豆油、豆粕、燒酒  
共ニ本邦輸入品ト競争スヘキ性質ノ貨物ニアラサルヲ以テ此ノ種ノ企業ノ發達ハ寧ロ彼我兩國ノ利益トスル處如何トナレ  
ハ是等ノ企業ニ依リテ各地ノ農産原料ヲ吸收スルコト頗ル多ク從テ一般士民ノ購買力増大スルヲ以テ我カ各種ノ輸入品ハ  
彼等ノ嗜好ニ應シテ漸次販路ヲ擴張スルニ至ル可キハ論ヲ待タサル處ナリ若シ夫レ前記工業ノ發達十分ナラストセハ當地  
輸出入ノ權衡ヲ失シ我カ輸入品ノ販路ニ多大ノ影響ヲ來スヤ明カナリ

第十三 蘇州地方ニ於ケル利權回收熱ニ基ク各種企業及保護政策ニ關スル

調査報告

(明治四十二年十月十一日在蘇州領事館事務代理大賀龜吉報告)

元來當地地方ノ重ナル產業ハ農業蠶繭絹織物業ノ三種ニシテ常熟縣産ノ米無錫縣ノ繭蘇州ノ絹織物ハ共ニ清國中ノ第一品ト稱  
セラル、モノナルモ其耕作養蠶織造法等ハ古來ノ法習ヲ墨守シ今日ニ至ルモ別ニ改良ヲ加ヘタル形跡ナク只織物染色ノ材料  
ニハ近來稍々外國品ヲ用ヒ居ルモ其織機等ニ至リテハ實ニ從來ノモノヲ使用シ又其紋模樣等モ一律不變ニシテ只時々流行ニ  
連レテ紋畫ノ大小ヲ改ムル位ニ止マリ未タ改良發達ノ現狀相見エ不申候得共頃來農業學堂美術工業學堂ヲ興シ盛ニ學生ヲ養  
成シ或ハ農藝試驗所ヲ設ケ或ハ地方ノ物産會ヲ開キ以テ大ニ産業上ノ發達ヲ期シ居候然ルニ未タ外國品排斥ノ目的ヲ以テ現  
ニ政府又ハ政府特別保護ノ下ニ起業セル會社工場等無之又内外國人合同資本ヲ以テ或ハ外國資本ヲ以テセル事業モ無之只蘇  
州ニハ蘇綸紗廠(明治二十年頃創立資本金八十萬兩)ト稱セル綿絲紡績會社、蘇州絲廠(明治二十年頃創立資本金四十萬兩)及  
吳興絲廠(明治二十年頃創立資本金五萬兩)ナル絹絲紡績會社、又無錫ニハ業勤機器紡織廠(光緒二十四年創立資本金三十萬  
兩)ナル綿絲紡績會社、茂新麵粉公司(光緒二十七年創立資本金四萬兩)ナル製粉會社、及一昨年創立シタル無錫紡績會社  
(資本金不詳)アルノミニテ右等會社ノ生産品ハ僅カニ内地需要ノ小部分ヲ充スニ過キス且其品質モ外國品ニ比シ劣等ナルヲ  
以テ外國品ノ輸入ヲ壓迫スヘキ程ノ發展ヲナシ居ルモノニ無之要スルニ今日ノ處當地地方ハ未タ我カ對清貿易ニ影響ヲ及ホス  
カ如キ產業又ハ金融機關等ノ勃興ヲ見サル也

## 第十四 齊々哈爾ニ於ケル利權回收熱ニ基ク各種企業及保護政策ノ調査

(明治四十三年一月二十七日在齊々哈爾副領事堺與三吉報告)

當地方面ニハ從來外國貨物ノ輸入盛大ナラス從テ外貨排斥ノ氣風モ甚タシカラス又土貨振興ノ企業等モ勃興スルニ至ラス本邦產貨物ヲ始メ外國貨物等モ排斥ノ影響ヲ受ケタルカ如キ狀況ナシ只近頃工業學校(名目ハ工業學堂ナルモ其實ハ年少子弟ニ普通學ヲ授ク)ニ於テ製紙業試驗中ニテ漸次製紙業ノ振興ヲ計ル計畫中ニ在リ又工藝傳習所ヲ設ケテ粗雜ナル家具類ヲ製作販賣シツ、アリト雖モ尙極メテ幼稚ナル時代ニ屬スル者ト云フヘク現在ニ於ケル企業ノ狀況ハ下ニ述フル所ノ如シ

### 一、官營事業

#### 黑龍江省火礮公司

當地地方ニ於テ官營工業トシテ見ヘキハ洋式即蒸氣力ヲ用ヒ製粉ニ從事セル黑龍江省火礮公司ニシテ光緒卅四年四月當省巡撫衙門ヨリ資本金四萬兩ヲ支出シテ開始シ當時之カ主任トシテ該公司ノ事務ニ當リシハ現今布特哈駐在副都統純德ナル者ナリ器械ハ最舊式ノモノニ係リ即チ四十年前英國ニ於テ製造セラレ天津ノ一來火礮公司之レヲ購入使用シ居リシモノヲ純德該處ニ出張購買シタルモノニシテ磨盤即チ臼ノ數二箇(皮剝キ機械ナシ)蒸汽機關一箇(十七馬力)此ノ買價四千兩之ニ家屋建築費等ヲ合セ創立費トシテ一萬二千兩ヲ費シ總辦ノ外技師一名、書記一名、人夫二十六名ヲ使用シ燃料ハ甘河石炭ニシテ一日ノ(夜間ヲ含マズ)消費高一千五百斤百斤ノ炭價三吊四百文ナリ其ノ原料タル麥ハ呼蘭綏化一帶ノ地方產ニシテ買込期タル結氷期ニ於ケル昨年ノ價格ハ一石ニ付キ六十五吊(目今ノ相場ハ同品一石ニ付キ八十吊替)ナリシト云フ面シテ一日間ノ製粉高ハ一晝夜ニテ二十石ノ麥ヲ磨リ八千斤ノ粉ヲ得其品等ハ(哈爾濱粉ノ三等ヲ以テ當公司粉ノ一等ニ比ス之レ器械舊式且ツ皮剝器ナキニ依ルナラン)一等ヨリ五等ノ五種ニ分チ一等十斤ニ付キ二吊六百文二等同シク二吊四百文三等同シク二吊二百文四等同シク二吊五等同シク一吊八百文トス

商標ハ記旗ヲ用ヒ三十斤入ヲ以テ一袋トシ之ヲ單位トシテ販賣ス販賣方法ハ卸賣及ヒ小賣ノ二者共ニ之レヲ行ヒ齊々哈爾ニ於ケル專賣店ハ南門外及小南外ニ各一箇處アリ

目下其ノ製粉狀態ヲ見ルニ原料品ノ價格騰貴ノ爲メ賣價ヲ引上ケサルヘカラス而カモ民間ノ生活程度ノ之ト併進セサル爲メ需要少ナク賣行キ面白カラサルニ依リ勢ヒ製粉高ニ制限ヲ加ヘサルヘカラサル事トナリ近頃ハ三日目ニ晝間ノミ一箇ノ礮盤ヲ運轉シテ二千斤ヲ製造シツ、アリ設立以來ノ總製粉高ハ詳カナラサルモ昨年十一月ヨリ本年三月迄ノ概算高ハ約十七萬斤ナリト云フ其ノ販路ハ殆ント當省城ノミニ限ラレ又輸入粉トノ競争上餘リ優勝ナラサル地位ニアルハ畢竟生産費ノ高キニ依ルモノナルヘシ目下所藏セル原料麥約五百石製粉貯藏高約九千斤アリ職工一日ノ賃錢ハ平均二吊文内外ナリ

二、官銀號

官銀號ハ光緒三十四年即チ明治四十一年八月ノ設立ニ係リ創立ノ日尙淺ク且ツ從來當地方唯一ノ金融機關タル廣信商務公司カ勢力ヲ逞シウシ諸官衙金庫事務ニモ當リ居ルヲ以テ未タ何等發展ヲ見ルニ至ラス勢力甚タ振ハス本號發行ノ兌換券ニハ一角、二角、五角、十角、一元、二元、五元、十元、五十元等アリ其發行高亦極メテ少額ナリ今其ノ章程ヲ譯出スレハ左ノ如シ

- 一、本官銀號ハ黑龍江省ニ設立シ奉天官銀號ノ分號トナス成績ノ佳良ナルニ至ツテ更ニ之ヲ擴張スヘシ
- 二、本號ハ總督巡撫ヨリ支出ノ銀三十萬兩ヲ以テ資本トナシ若シ此以上ノ支出ヲ受ケタルトキハ之ヲ保護資本トナシ之ニ對シテ四分ノ利ヲ附ス
- 三、本號ハ紙幣ヲ流通セシメ黑龍江省内ニ於ケル地租厘稅ノ納付及公金ノ收支及市場ノ通用ニ充テ現金ト異ナルコトナシ
- 四、本號ハ預金及貸付并ニ手形割引等ヲナスモ目下市況不振ナルヲ以テ當分ノ内貸付ヲナサス市面ノ活況ヲ呈スルニ至テ巡撫ノ許可ヲ受ケ貸出ヲ開始スヘシ分號及奉天總號ノ取扱ニ係ル官吏商人ノ爲替ハ本號ニ於テ之ヲ代辦スヘシ其餘ノ本省及外省ノ爲替ハ營業ヲ擴張シ分號開設ノ上ニ之ヲ取扱フヘシ
- 五、本號ハ公ノ資本ニ係リ公ノ保護ヲ受クルモノナレハ若シ市場金融必迫ノ際ニハ度支司ヨリ特ニ特別資金ヲ支出シテ之ヲ

救済セラルヘシ而シテ本號ハ之ニ對シテ定期償還ニ任スヘシ

- 六、本號ニハ督撫ノ任命ニ係ル總辦一名ヲ置キ一切ヲ監理シ隨時巡撫ニ稟明ノ上利弊ヲ興革ス總商一名ハ總辦ノ節制ヲ受ケ號内ノ出納及營業并ニ幣制ヲ司リ使用人ノ取締及其勤惰ヲ監督ス又督撫ヨリ監查役一名ヲ選任シテ金錢帳簿利弊ヲ監查ス
  - 七、總辦ノ下ニ書記一名ヲ置キ文書ヲ司ル
  - 八、總商ノ下ニ副商手代及見習ヲ置ク凡テ確實ナル商店ノ身元保證ヲ要シ不正ノ行爲アレハ之ヲ賠償セシム
  - 九、總辦及役員ハ督撫ヨリ選任シ書記以下ハ總辦之ヲ任免シ總商以下ノ商人ハ總商之ヲ任免ス
  - 十、本號ノ帳簿及金錢文書類ハ督撫ヨリ隨時特別檢査官ヲ派シテ之ヲ檢査ス
  - 十一、紙幣引換ハ即時之ヲ行ヒ制限ヲ加フヘカラサルモ若シ營利的ニ之ヲ行フモノアレハ相當ノ處分方法ヲ取ルヘシ
  - 十二、帳簿係ハ出納ヲ司リ毎月末表ヲ作りテ書記ニ交付シ書記ハ毎月末報告書ヲ調製スルモノトス若シ疑アル場合ニハ總辦ニ稟請シテ帳簿檢査ヲ行フ
  - 十三、金錢係ハ現銀引換及紙幣振出等ヲ司リ必ス二名ノ手ヲ經テ之ヲ計算シ其封皮ニ取扱者ノ氏名ヲ記明シ夜ニ至リテ執事ニ引渡ス帳簿係及金錢係等ニハ總商ヨリ各監視人一名ヲ派シテ之ヲ監視セシム
  - 十四、銀兩買賣ハ凡テ實量ニ依リテ計算交易シ平餘等ノ利ヲ取ルコトヲ得ス
  - 十五、金庫ハ毎日正午一回之ヲ開キ總理及金庫係并ニ總商副商等立會ヒ之ヲ檢査ス
- (中 略)
- 廿五、本號發行紙幣ノ多寡ハ總辦及總商協議ノ上市場ノ狀況ニ照シテ之ヲ定メ督撫ニ上申ス紙幣發行ニハ印三個ヲ要シ總辦及監查役并ニ總商各別ニ一個宛ヲ所持シ立會ヒ捺印ノ上之ヲ發行ス其號數及捺印等ト雖モ重要事ナルヲ以テ必ス重任一名ヲ定ムヘキモノトス
  - 廿六、年末決算ノ利益ハ其純利益ノ二割五分ヲ積立金トシ二割五分ヲ賞與金トシ五割ヲ剩餘利益金トス



廿九、資本金ハ金庫ニ貯藏シ將來穀物或ハ貨物買入其他特別業務ノ爲メ運用セントスル場合ニハ奉天官銀號ノ章程ニ從ヒ四厘ノ利息ヲ公ニ納ムルモノトス

三十、何人ニ拘ラス若シ本號ノ紙幣ヲ偽造シタルモノアレハ戶部奏定ノ紙幣偽造例ニ照シテ之ヲ處罰スルモノトス

卅一、本號ハ大銀元紙幣及小銀元紙幣ヲ發行シ現銀及現銀元ト異ナルコトナシ又此紙幣ヲ以テ各地官銀兩爲替ヲ取組ムコトヲ得但シ銀兩トノ相場ハ時ト土地トニ應シ時價ニ依リテ定ムルモノトス

卅二、本號ニ預金シタルモノ三箇月以上ノモノハ三箇月後ヨリ四厘ノ利ヲ附ス各分莊ニ預金シタルモノハ利息ヲ附セスト雖モ預金三箇月以上ニ及ヒタルトキハ其分莊ヲ經テ齊々哈爾ニ爲替ヲ取組ム場合ニ爲替料ヲ要セス

以上ハ假章程ニ係リ將來之ヲ改訂ノ必要生シタルトキハ督撫ニ上申シ其認可ヲ經テ之ヲ改ムヘシ

齊昂鐵道

同鐵道ハ東清鐵道齊々哈爾驛昂々溪下黑龍江省ノ首都齊々哈爾城トヲ聯絡セシムル爲メ清國官營トシテ經營セル者ニシテ明治四十年天津獨逸商泰來洋行ニ受負ハセ布設セシ者ニシテ全線五十清里明治四十一年秋竣工ノ豫約ナリシ處種々ノ故障ニ依リテ工事著シク遅延シ巡撫ト泰來洋行トノ間ニ紛議ヲ生シ居タルカ今春ニ入りテモ工事ノ進行抄々シカラス且ツ清國側ニ於テハ工事ノ不完全及竣工遅延ノ不都合ヲ主張シテ工事ハ大體竣成シナカラ受渡結了セスシテ久シク其儘ニ放任セラレ居タルカ今回漸ク受渡ヲ了スルコト、ナリ清曆八月十五日即チ我九月二十七日ヨリ愈開通シ毎日二回齊々哈爾驛ト齊々哈爾城間ヲ往復シ居レリ而シテ中間驛ハ二箇所ニシテ即チ烏虎瑪停車場ナリ本輕便鐵道開通ノ爲メ當齊々哈爾城ノ交通ニ多大ノ便利ヲ來シタルハ勿論ナルモ只東清鐵道會社ニ於テ本輕便線昂々溪停車場ヲ東清線齊々哈爾停車場附屬地内ニ置クヲ肯セス東清線ト密接ノ聯絡ヲ取ル能ハサル爲メ多大ノ不便アリ現ニ輕便線昂々溪停車場ハ東清線昂々溪停車場(即チ齊々哈爾驛)ノ東方ニ在リ又齊々哈爾城停車場モ南門ヲ距ルコト稍々遠ク乘客ノ來往ニハ其不便ヲ忍ビ得ルトスルモ貨物ノ運搬ニハ不便多大ニ

シテ現在ノ輸送機關タル馬車輸送ヲ本輕便鐵道ニ奪フカ如キハ隨分困難事タルヘシト思ハル本鐵道旅客貨物運送規定ハ即チ左ノ如シ

乘客攜帶手荷物ハ一等乘客九十斤二等乘客六十斤三等乘客三十斤迄ヲ無賃トス  
賃銀ハ銀元ヲ以テ定ム

齊昂輕便鐵道乘客貨物運賃規則

第一條 齊々哈爾城ト昂々溪間ノ本鐵道線路五十二清里ヲ便宜上五十清里トシテ計算シ乘客貨物ニ對シ左ノ通り賃銀ヲ定ム

特別車、專用車ニシテ乘客定員ナク專ラ督撫ノ公用來往ニ供ス若シ本特別車ヲ借切ラントスルモノハ其賃銀三十元トス

一等客車、各輛乘客定員ヲ二十四人トシ一人ノ賃銀一元五角(一圓五十仙以下倣之)一車借切賃二十四元トス

二等客車、各輛乘客定員ヲ二十四人トシ一人ノ賃銀一元一車借切賃十六元トス

三等客車、各輛乘客定員ヲ二十四人トシ一人ノ賃銀三角二十人以上ヨリ成ル團體ニ對シテハ三割引トス但一車貨切ヲナサス

有蓋貨車、各一輛ノ積載量ハ八千斤ヲ限度トス即チ約五噸ニ當ル一車借切料ハ十元トス

無蓋貨車、各一輛ノ積載量ハ八千斤ヲ限度トス即チ約五噸ニ當ル一車借切料ハ八元トス

第二條 貨物運賃ハ左ノ三項ニ從ヒ之ヲ徵收ス

一、上等貨物例へハ繻子、緞子、紗絹、絹絲、衣帽、靴襪、絨緞、狐狼狼虎皮、猪鬃馬尾、羽毛、漆器、磁器、古董、西洋蠟燭、海產物、果物、煙、酒、茶及各種罐詰類ノ如キハ百斤ニ付賃銀四角トス

二、中等貨物例へハ綿、綿絲、牛馬羊ノ皮、皮靴、毛毡、銅器、鐵器、籐器、砂糖、曹達、鹽、藥材、小麥、米、燕麥、大麥、麥粉、粟、菽麥、豆油、蘇油、蘇油、紅豆、芸豆、牛羊豚肉、材木、野菜等ノ如キ百斤ニ付賃銀三角トス

三、下等貨物例へハ稗、高粱、粗造竹木器、繩麻、叭喇、磨片、籠、煉瓦、瓦、石炭、薪、柴草等ノ如キ百斤ニ付賃銀二角トス

輕量品即チ容積ノミ過大ナルモノハ一立方尺ニ付貨銀一角トス

動物ハ頭數ニ依リテ計算シ騾、馬、牛ハ一頭ニ付四角五分驢ハ一頭ニ付二角四分豚、羊、猫、犬ハ一頭ニ付一角五分トス  
ス松棺ハ每一棺ニ付四元トス但シ重ク且ツ大ナルモノハ六元トス

第三條 齊々哈爾城烏虎瑪間ノ三十清里及烏虎瑪昂々溪間ノ二十清里間ニ於ケル乘客貨銀及貨物運賃ハ凡テ里數ニ依リテ計算規定ス即チ左ノ如シ

甲、齊々哈爾、烏虎瑪間

- 一等客車賃 一人ニ付九角
- 二等客車賃 一人ニ付六角
- 三等客車賃 一人ニ付一角八分
- 上等貨物運賃 百斤ニ付二角四分
- 中等貨物運賃 百斤ニ付一角八分
- 下等貨物運賃 百斤ニ付一角二分

動物ハ第二條第三項ノ規定率ニ照シ里數ニ應シテ計減ス

乙、烏虎瑪、昂々溪間

- 一等客車賃 一人ニ付六角
- 二等客車賃 一人ニ付四角
- 三等客車賃 一人ニ付二角二分
- 上等貨物運賃 百斤ニ付一角六分
- 中等貨物運賃 百斤ニ付一角二分

下等貨物運賃

百斤ニ付八分

動物ハ第二條第三項ノ規定率ニ照シ里數ニ應シテ計減ス

以上各停車場間ニ一車ヲ借切ラントスル場合ニハ第一條ノ規定料金を標準トシテ里數ニ應シテ計減徵收ス

第四條 男女乘客四歲以下ノモノハ無賃トシ四歲以上十二歲以下ノモノハ半額トス

第五條 軍隊、糧餉ノ軍器等ノ輸送ハ營務所發行ノ割引券アル場合ニ限り半額トス各種ノ軍器及ヒ禁制品ニシテ官ノ票證ナキモノハ凡テ之ヲ抑留シ巡警ニ報告シテ其處分ニ任ス

第六條 本部各省ヨリ邊地開墾ノ爲メ招來セラレタル農民ニシテ官憲ノ證明書ヲ有スルモノハ章程ニ照シテ半額ヲ減ス

第七條 郵便局遞送物件ハ凡テ該局從來ノ規定ニ照シテ取扱フ

第八條 本公司ニ於テ徵收スル運賃等ハ凡テ清國現行ノ大銀元及小銀元并ニ官ノ發行ニ係ル兌換銀元券ニ限ル而シテ一角ニ達スル貨銀ハ銀元ニテ受入レ一角ニ達セサルモノハ銀元一分ヲ十文銅錢一個ト計算シテ徵收ス外國紙幣ハ凡テ受入レス

第九條 本章程ハ業務假章程ニ係リ不備ノ點ハ隨時申請改訂スルモノトス又執務細則等ハ今後更ニ規定スヘシ

一、官民合同事業

廣信公司(銀行)

廣信商務公司ハ前黑龍江巡撫程德全ノ發起ニ基キ當省ノ金融ヲ圓滑ニシ商事ノ振興ヲ謀ルノ目的ヲ以テ官民合同出資シ光緒三十一年設立シタル有限責任株式組織ニシテ資本金五十萬兩之レヲ五千株ニ分チ官二千株ヲ民三千株ヲ引受ケタリ本店ヲ齊々哈爾ニ置キ支店ヲ呼蘭、綏化、巴彥爾、哈爾濱ニ有ス

本公司發行兌換券銅ヲ基礎トシ銅錢三十一個ヲ以テ一吊トス今其ノ章程ヲ掲クレハ左ノ如シ

一、本公司ハ官民合同ノ資本ニ成リ紙幣ノ發行ヲ基礎トシ廣信商務公司トシ以テ名實相符セシム

一、本公司ヲ有限責任公司ト爲シ募集株式ニ依リ資本總額五十萬兩ト爲ス然レトモ黑龍江省ノ地域、財力、豐富ナラサルヲ

以テ先ツ二十萬兩ヲ官民平分ニ拂込ヲ爲サシメ一株百兩トナシ二千株ヲ限リ募集ス而シテ其數ニ達シ商務ヲ振興シ事業ヲ擴張シタルノ時更ニ株主總會ノ決議ヲ經テ第二回拂込ヲナサシム(現今已ニ資本總額拂込済トナレリ)

- 一、募集シタル株式ハ其ノ官ト民トニ論ナク毎株ニ付株券一枚利札一枚ヲ附與ス但シ多數株式ノ申込者ニアリテハ其ノ希望ニヨリ併セテ一券ト爲スコトヲ得毎年ノ公定利息ヲ五分トシ利札ニヨリテ之レヲ支拂フ利息ノ支拂期ハ毎年十一月ヨリ十二月迄トシ其仕拂ヲ爲シタル時ハ利札ニ其ノ旨ヲ記入ス

- 一、株主ニシテ其ノ株券ヲ遺失又ハ破損シタルトキハ隨時公司ニ通知シ保證人ヲ添ヘテ請求スルトキハ再ヒ補給ヲ行フ又株券ヲ他人ニ讓渡ストキハ同様公司ニ報明スルコトヲ要シ登簿ノ上原券ニ其ノ讓渡年月日并ニ姓名ヲ記入シ以テ查考ニ備フ
- 一、京錢紙幣ヲ發シ一、二、三、五吊ヨリ十吊、五十吊、百吊ニ至ル七種ニ分ツ周ク全省ニ流通セシメ官ト民トニ論ナク隨時銀元或ハ現銀ニ兌換シ又官衙ノ徵收租稅ニ本紙幣ヲ納付スルコトヲ得

- 一、紙幣ハ上海ニ於テ洋式ニ印刷シ技工精緻ニシテ確實ヲ保留セシメ以テ詐偽變造ヲ防ク若シ贋造スル者アレハ私鑄ノ例ニ照シ嚴罰懲戒ヲ加ヘ以テ其ノ流弊ヲ防ク

- 一、本公司ハ紙幣ヲ發行シ爲替業ヲ以テ主トナス然レトモ商務ニ關スルモノハ如何ナル事業タルニ論ナク均シク經營ニ資シ以テ利源ヲ廣グ

- 一、本公司ハ江省ニ設置シ總公司ト分司トノ論ナク收支ノ項款ハ均シク江平黑龍江省貨幣本位ヲ以テ計算シ以テ劃一ヲ明ニス

- 一、本公司ハ金融ヲ疏通シ商務ヲ振興スル爲メ分司ヲ設ケ其普及ヲ謀ル總公司ヲ齊々哈爾濱置キ其省ノ繁盛ナル都邑ニハ各分司ヲ設ケ並ニ吉林、長春、奉天、營口、北京、天津等ノ地方ニ出張員ヲ派シテ爲替及其他ノ業務ヲ辨スルノ外市場ノ情形ヲ探查報告セシメ以テ見聞ヲ廣グ

- 一、本公司ハ官商ノ合同資本ナレトモ素商務ニ屬スルヲ以テ其事務員ハ凡テ商人ヲ用ヒ官場ノ習氣ハ一切革除ス唯々將軍副

都統ヨリ監督員一名ヲ派シ臨時稽查シ凡ソ公司ノ利弊商情ノ旺衰ハ均シク該員ヨリ查明稟請ス其俸給ハ公司ヨリ支給ス

- 一、本公司ハ既ニ商務ニ係ルヲ以テ凡テ人事ヲ承辦スルニ均シク總辦封中辦ノ名目ヲ用キス總公司ニ總董二人副董三人分局ニ各分董一人ヲ用ヒ公司ノ事務ヲ主宰ス總副分董ハ均シク官商ノ株主中ヨリ公選シ以テ慎重ヲ明ニス其他各事ヲ分掌スル司帳書札ヨリ以テ諸執事ニハ總副分董ハ能ク賢ヲ選ヒテ之レニ充ツヘシ總副分董及辦事人等相均シク廉潔自重シ事業ニ勤勉タルヘシ若シ弊ヲ醸シ缺損ヲ生スルカ如キ事アレハ責ヲ本人並ニ保證人ニ歸シテ賠償セシム

- 一、總董ニシテ才智職ニ稱ハス或ハ利ニ走リ弊ヲ惹起スルノ情アル場合ニハ株主及副董ハ隨時其實事ヲ考查シ公議ニ附シテ其去就ヲ論ス副董以下諸人ニシテ倘シ規定ヲ遵守セシテ公司ノ秘密ヲ偷漏スルトキハ總董之ヲ查明シ輕キハ譴責シ重キハ退職セシメ或ハ官ニ送リテ究治ス

- 一、三箇月毎ニ一回支出收入額ヲ決算シ清算書ヲ作成シテ監督員ニ呈出スヘシ監督員之ヲ查檢シテ誤謬ナキトキハ將軍副都統ニ轉附シテ案ニ備フ翌年正月ニ至リ前年度收支決算書三部ヲ作り監督員ノ監查ヲ經タル後一部ハ將將副都統ニ呈シテ案ニ備ヘ一部ハ省城商務會ニ與ヘテ各株主ノ閱覽ニ供シ一部ハ本公司ニ留メテ考査ニ資ス

- 一、毎年正月ニハ前年度收支ノ決算ヲナシ俸給、食費及一切ノ費用ヲ除キ尙他ニ剩餘アルトキハ其三分ヲ公定積立金トシ五分ヲ株主ニ配當シ二分ヲ重役以下ノ賞與金トシ利益ノ均沾ヲ得セシメ以テ奮勉獎勵ス

- 一、本公司ハ已ニ株式組織ニ係ルヲ以テ事務ノ誠實公平ヲ明ニスル爲メ毎年正月決算後期ヲ定メテ株主總會ヲ召集シ業務ノ報告ヲナスト共ニ將來ノ發展并ニ弊端ノ剔除等ヲ商量會議シ多數決ニヨリテ總董之ヲ決ス事務員ノ功過ハ之ヲ分議シ賞與金ヲ酌量加減シテ勸懲ヲ示ス

- 一、此章程ハ初創ニ屬シ以後事務ニ障礙アルモ隨時變更スルヲ得ス應ニ公司ハ官商各株主ヲ召集シテ改正案ヲ株主總會ノ決議ニ附シ官憲ノ認可ヲ得ヘシ總副董ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

以上

此クシテ廣信公司ハ設立セラレ本公司發行紙幣ノ銀及露貨ニ對スル一定相場ヲ定メ二吊五百文ヲ以テ銀一兩ニ一吊五百文ヲ以テ一留トナセリ

日露戰役後北滿ノ事業漸ク頻繁トナリ資本ヲ投機的企業者へ貸出シ今尙ホ回收ノ見込ナキモノ多ク又ハ無利息ニテ官業ニ融通シ即チ十萬兩ヲ齊々哈爾運河開鑿費ニ七萬五千兩ヲ齊々哈爾外國人居留地建設費ニ二十九萬兩ヲ齊昂鐵道敷設費ニ貸出シタルカ如キ其他不生産的事業ニ消費シ回收ノ見込ナキモノ頗ル巨額ニ上リ居レリ元來廣信公司ハ程巡撫ニヨリ本省ノ金庫トシテ設置セラレタルモノナレハ該公司ノ消長ハ黑龍江省財政ノ整否ニ直接ノ關係アルヲ以テ屢々告諭ヲ出シテ官帖ノ流通範圍ヲ大ナラシメ且ツ省ノ財政困難ノ爲メ之カ彌縫策トシテ正貨準備ノ如何ヲ顧ミス兌換券ヲ濫發シ昨年一月ノ如キハ其總額三千萬吊ニ上リ之ニ對スル正貨準備ハ銀七十萬兩三十萬弗金五萬留ニ過キサリ是ニ於テカ本公司ノ信用大ニ落チ一時取付ニ遇ヒ速時之カ支拂ニ應スル能ハサリシカ爲メ公定相場ハ著シク下落シ終ニ露貨一留ニ對シテ三吊、四吊ヨリ現今ハ五吊ニ三百文ニ上ルニ至レリ

該公司ノ明治四十二年二月九日ニ於ケル營業狀況ハ左ノ如シ

一、收入ノ部

二八、二一七兩

一、九六五、四四〇吊

九、九九〇留

合計

二、一八四、六九二吊

一、支出ノ部

二九、三九六兩

一、九七〇、五六九吊

一六〇留

合計

二、一五五、七四二吊

兌換券發行總額四〇、〇〇〇、〇〇〇吊

銀

三六一、五六九兩

銅

五〇三、〇七二吊

金

一九、三六七留

三、内外人合同事業

大黒河ニ於テ日清人合同ニテラムネ製造販賣業ヲ營ムモノアレトモ小規模ニシテ事業未タ徹々タル者ナリ其他之ニ該當スル者アラサル也

# 第十五 新民府附近ニ於ケル利權回收熱ニ基ク各種企業及保護政策ノ調査ニ

## 關スル報告

(明治四十二年十二月二十八日在新民府分館主任北條大洋報告)

當地ニ於ケル利權回收ノ思潮ハ各地ト同様比較的教育アル者即チ官吏軍人教員學生間ニ澎湃セルヲ認メ得ヘシト雖モ商民間ニ於テハ未タ著シキ現象ヲ見ス故ニ地方官憲ハ教育自治農工業ヲ奨励シテ常ニ主權ノ得喪ヲ論シ利權ノ外溢ヲ防クヘキ旨ヲ諭スニ努メツ、アリト雖モ當地ニ於テハ近キ將來ニ於テ本邦産業ニ影響ヲ及ホスカ如キ企業ヲ見ルコトアラサルヘシ

### (一) 清國政府又ハ人民自營ノ工業及銀行

(甲) 當地ニハ清國政府ノ經營ニ係ル工業ナシ唯タ知府衙門カ囚徒ニ工作ヲ教フル爲メ習藝所ヲ設ケテ各種ノ工作ニ從事セシメ又游民貧民ヲ收集シテ工藝ヲ授クル爲メ教養局ヲ設ケ産業ヲ興スノ計畫ニ着手ス此等ハ地方官自ラ囚人及無職業者ヲ利用シテ各種ノ製作物ヲ販賣スルハ以テ外品ヲ防キ國益ヲ増スノ三得アルモノト自信セルカ如シ

### (乙) 工業ハ人民ノ自營ニシテ茲ニ記載スヘキモノハ油坊及燒鍋ノ二トス

油坊ハ三十五戸アリ昨年九月ヨリ本年八月ニ至ル一箇年間ノ製造高左ノ如シ

豆餅	七四四、一五〇個
麻餅	六三、九〇〇個
豆油	三、三一四、二五〇斤
麻油	四五七、六三二斤

燒鍋ハ高粱酒ヲ釀造スル所ニシテ大小六戸アリ昨年ノ産額ハ百四十一萬九千斤ナリ其他粗布八萬五千兩、麵粉二十二萬斤改連紙二十二萬疋ノ製造之ニ次ク

(丙) 銀行ハ奉天官銀號ノ出張所零集銀號及同源銀號ノ三アリ

奉天官銀號ノ出張所ハ本年三月ノ開設ニシテ單ニ爲替事務及當地稅局ノ税金ヲ取扱フノミ  
 零集銀號ハ去ル三十九年三月ノ開業ニシテ帖子亂發ノ結果一大恐慌ヲ來シ目下整理中ニテ銀行業務ヲ執ラサルモ別ニ二個ノ  
 質業ヲ營ム

同源銀號ハ昨年八月ノ開業ニシテ資本百六十萬吊ト稱ス貸付ノミヲ業トシ別ニ質屋二個ヲ有シ質屋ノ名義ニテ帖子三十三萬  
 六千吊ヲ發行ス

(二)官民合同ノ企業又ハ政府ノ特別保護ヲ受クル清人自營ノ企業  
 ナシ

(三)此等ノ企業ノ成立時日種類企業組織(個人企業、合資、合名株式組織業)會社ニアツテハ其定款其生産品ノ販路其事業ノ成  
 績及將來ノ見込

蘇餅蘇油ハ關内ニ輸送セラル、モノアルモ豆餅豆油ハ營口ニ輸送スルモノ最モ多シ

前記銀行ノ成績良好ナリ而シテ各油坊等ノ發行ニ係ル帖子ニ對シテハ清國政府ハ漸次制限ヲ加フヘキ傾向アルヲ以テ銀行業  
 ハ將來有望トナルヘシ

(四)此等ノ企業ニ對スル外國資本輸入ノ有無及方法

ナシ

(五)清國ニ於ケル内外人合同事業特ニ日清合辦企業ノ現況及將來

當地ニハ目下清人側ノ實商七戸ト本邦側ノモノ四戸アリ内二戸ハ日清合同ニシテ相當ノ利益アルモ何レモ資本小ナリ蓋シ比  
 較的有望ナルハ斯業ナリ其他内外人合同ノ事業ナシ

(六)清國自營ノ企業ノ本邦産業ニ及ホス影響

當地ノ現狀ヲ以テ將來ヲ料ルニ本邦産業ニ對シテ多大ノ影響ヲ及ホスカ如キ企業ハ興ラサルヘシ

### 第十六 杭州ニ於ケル清國人自營事業報告

(明治四十二年十二月十一日在杭州領事事務代理池部政治報告)

#### 一、銀行

名	稱	種	別	資	本	創	立	年	月	日	總	辦	氏	名								
大清	銀行	戶	部	百	萬	宣	統	元	年	四	月	二	日	候	補	知	縣	劉	如	輝		
浙江	銀行	官	部	五	十	萬	元	宣	統	元	年	三	月	二	十	日	候	補	道	章	如	輝
浙江	興業	株	式	百	萬	元	光	緒	三	十	三	年	四	月	二	日	孫	德	全	全	全	全
浙江	大通	儲蓄	銀	株	式	會	社	三	十	萬	元	宣	統	元	年	四	月	孫	德	全	全	全

備考 大清銀行並ヒニ浙江銀行ハ專ラ各官廳公金ノ出納ヲ掌リ民間錢莊並ヒニ商工業者トノ取引ナシト雖モ俱ニ兌換券ヲ  
 發行ス浙江興業銀行ハ專ラ生絲商綢緞業家ノ金融機關ニシテ當地ニテハ尤モ信用アル銀行ナリ壹元五元拾元三種ノ兌換  
 券ヲ發行ス又々大通儲蓄銀行ハ嘉興府ニアリ

#### 二、工業

名	稱	種	別	資	本	創	立	年	月	日	總	辦	氏	名									
通益	公紗	株	式	百	三	十	五	萬	元	光	緒	二	十	一	年	幹	林	院	編	修	慶	心	銘
楊華	織綢	株	式	十	萬	元	光	緒	三	十	八	年	八	月	廿	六	日	吳	恩	元	元	元	銘
豐和	石鹼	株	式	三	萬	元	光	緒	三	十	一	年	十	月	十	六	日	葛	昭	常	常	元	銘
鼎和	織綢	株	式	一	萬	元	光	緒	三	十	三	年	十	二	月	孫	德	全	全	全	全	全	全
華昌	織綢	株	式	三	千	元	光	緒	三	十	年	二	月	孫	德	全	全	全	全	全	全	全	全

備考 楊華織綢公司製品ハ價格ノ點ニ於テ他ノ同業者製品ニ比シ甚タ昂貴ニ過クルヲ以テ賣行キ面白カラス創立以來既ニ  
 四萬元ノ損失ヲ招キタリ豐和石鹼公司ニテハ專ラ洗濯用石鹼ヲ製造ス製品良好ニシテ信用篤ク販路擴シ

鼎和糖詰公司ハ一時盛大ヲ極メタルモ製品段々疎悪トナリ從ツテ販路漸次縮少シ昨年ニテハ一千元ノ損失ヲ見タリ  
華昌織襪公司ノ製品ハ品質良好ニシテ賣行キ活潑ナリ

三、鐵道

名稱	種類	資本	創立年月日	總辦氏名
全浙鐵路公司	株式會社	二千八百萬元 拂込額九百萬	光緒三十二年九月	總辦 湯壽潛 副總辦 劉錦藻

四、汽船會社

名稱	種類	資本	創立年月日	總辦氏名
招商局 德新輪船公司 錢江輪船公司	官株式會社 株式會社	二萬五千元	宣統元年五月 宣統元年二月	候補知府 朱贊恩 樓景暉

備考 德新輪船公司錢江輪船公司ハ何レモ本年中創立セラレタルモノニシテ德新公司ハ專ラ内河ヲ航行シ主トシテ我カ日清汽船會社ト競争セントスルモノ又錢江輪船公司ハ錢塘江中杭州桐廬間ヲ航行スルモノナリ

以上各種企業ニハ外國資本ノ輸入ナク又タ内外人合同ノ事業ナシ而シテ目下當地ニ於ケル清國自營ノ企業ノ本邦産業ニ甚シキ影響ヲ及ホスモノヲ見スト雖モ鐵道ノ開通並ヒニ清國人自營ノ汽船會社ノ創立カ我カ日清汽船會社ニ與フル打撃ハ頗ル重大ナルノモアリ

第十七 漢口地方ニ於ケル利權回收熱ニ基ク企業ノ勃興

(明治四十三年五月二十九日在漢口松村總領事報告)

(一) 湖北水泥公司設立ニ關スル報告

從來南清一帯ニ需要セラレシ外國「セメント」ハ唐山「セメント」英國ノ「グリーンランド」安南ノ龍牌日本ノ中央「セメント」等ニシテ殊ニ漢口ニ於テハ近時諸般事業ノ勃興ト鐵道敷設工事ノ開始ト共ニ其輸入噸ニ増加シ千九百八年ニハ二十九萬五千二百三十八擔價格二十九萬二千二百八十六海關兩千九百九年ニハ三十五萬擔ニ達セリ本年ハ川漢鐵道工事ノ一部已ニ開始セラレタルヲ以テ其輸入量ハ蓋シ莫大ナルヘシ近年清國官民一齊ニ土貨興振外貨排斥ヲ唱ヘ利權回收外資亡國ノ論喧シク各種ノ事業新設又ハ増資セララル、モノ多キカ茲ニ光緒三十三年(明治四十年)三月上海清華實業公司ハ漢口ノ官吏紳商ト圖リ湖北省大冶縣石灰窑ニ一大セメント會社ヲ設立スルコトヲ企圖シ廣湖總督ヲ經テ農工商務ニ出願シ是カ設立ノ許可ヲ得タルノミナラズ湖北省内專賣權、厘金免除政府ノ利益保證等諸種ノ特權ヲ得其工場ノ大部モ已ニ竣工シ近日ヨリ其業務ヲ開始シ之カ製造ヲナスノ運ヒニ至レリ今同會社内部ノ事情ニ就キ取調タル結果左ノ如シ

(一) 會社設立ノ主旨及沿革

中國實業ノ興ラサルハ土貨劣等ナルカ爲メナリ故ニ官ヨリ提唱シ上下協力スルニ非サレハ富強ノ實期シ難シ查スルニ各省鐵路ハ其大半ハ已ニ回收シテ中國自ラ經營スルニ至レリ其用フル材料中「レール」枕木、セメント等ハ其重ナルモノナルカ其中「レール」ハ之ヲ漢陽鐵政局ヨリ供給スルヲ得ルモ枕木セメント等ニ至リテハ尙之ヲ海外ニ仰カサル可カラス惟フニ由來吾國ハ森林ノ學ヲ講セス故ニ枕木ノ利益ハ之レヲ一時ニ回收スルコトヲ得サルモ「セメント」ノ一項ニ至リテハ之ヲ容易ニ回收スルコトヲ得ンセメントノ需要タルヤ極メテ廣シ鐵路事業ハ云フニ及ハス家屋橋梁築堤修路等ニ至ル迄之ヲ用ヒサルナシ故ニ本公司ハ之レカ製造ヲ計畫スルコト久シ查スルニ湖北大冶縣黃石港臺子灣ニ産スル原料ハ會テ外人ノ分析試驗ヲ經シニ其品

質ハ最モ佳ニシテ青島唐山ノ比ニ非ラス且ツ地大江ニ臨ミ運搬最モ便中外各商已ニ久シク垂涎スル所ナリ故ニ本公司ハ茲ニ見ル所アリ利源開發ノ目的ヲ以テ資金參拾萬兩ヲ籌集シ湖北水泥廠ヲ設立セント欲ス伏シテ希クハ保護獎勵ノ主旨ヲ以テ專賣三十年厘金免除五箇年特別ニ恩典ヲ與ヘラレン事ヲ敝公司經營宜シキヲ得テ獲利順調成效ノ曉ニ至ル時ハ三十年後ヲ俟テ工場機械一切ヲ舉ケテ公家ニ報ン云々

以上ハ同公司カ設立ノ許可ヲ願出タル書面ノ大意ナリ右ニ對シ政府ハ三十箇年ノ後ニ至リテ機械家屋ノ一切ヲ舉ケ公家ニ寄附セントノ一項ハ其義ニ及ハサル旨訂正シ其特權ニ至リテハ政府ハ農工商務ヲ調査覆奏セシメ數種ノ特權ニ對シテ裁可ヲ得テ許可セリ

設立ノ當時ハ資本三十萬兩ニシテ内五萬兩ハ清華公司ニテ引受二十五萬兩ヲ一般株式ニテ募集セリ然トモ光緒三十四年事業着手ノ當時銀貨暴落ノ爲メ當初ノ豫算ニテハ到底事業ニ着手スルヲ得ス且ツ初メ一日ノ製造高五百樽ノ機械購入ノ筈ナリシモ近時土木事業勃興ノ爲メ「セメント」ノ需要激增セルニヨリ一日五百樽ノ製造ニテハ其需要ヲ充タス能ハサルヲ以テ遂ニ一日ノ製造力八百樽ノ機械ヲ購入スルノ必要ヲ生シ是等ノ理由ニヨリ當初ノ豫算約二倍トナレリ是ニ於テカ増資ノ必要ヲ生シ特別會議ヲ開キ其結果參拾萬兩ノ増資額ハ之ヲ清華公司ニ於テ引受ケシムルコトヲ出願セルモ若シ之ヲ許可スルトキハ六拾萬兩ノ資本ノ中清華公司ノ出資額三十五萬兩ニ上リ會社ハ清華公司ノ附屬會社ノ如キ觀アリ且又該出資契約々欸中清華公司ハ優先權ヲ有シ普通株主ニ優先シテ先ツ利益金ノ二割ヲ受クルコト等不穩當ノ廉アルヲ以テ農工商部ハ將來紛糾ノ發生スヘキヲ慮リ全然獨立ノ會社タル可キヲ命シ増資ヲ許可シ六十萬兩皆一般商界ヨリ募集スルコトニ決セリ

該工場ノ建築機械及其他總テ設備ハ獨逸商瑞記洋行之ヲ受負ヘリ製造技師モ總テ獨人ヲ聘用シ現在五人ノ技師アリ

(二)株金募集方法及利益配當  
資本金ハ總額六十萬兩ニシテ株券ハ記名及無記名ノ兩種アリ額面高ニヨリテ之ヲ四種ニ分チ零股票(十兩)整股票(百兩)十股票(千兩)百股票(一萬兩)トシ清國人ノミ之カ所有ヲ許シ外國人ノ株主タルコトヲ許サス

六十萬兩ノ内最初申込ミタル十五萬兩ヲ最優票其他ヲ優先票トシ最優票ニ對シテハ純益金ノ二割ヲ配當シ其ノ餘ヲ二十分シテ其十二ヲ以テ他ノ株券ニ配當シ四ヲ以テ積立金ニ充テ残り四ハ之ヲ事務員ニ賞與ス

(三)組織

普通清國ニ於ケル會社事業ハ官督商辦ト稱シ政府ノ干渉ヲ蒙ルヲ常トスルモ特ニ本會社ニ對シテハ政府ハ會社ノ營業ニ屬スル一切ノ事業ニ關シ何等ノ干渉ヲ與ヘサルコトヲ保障シタリ役員トシテ總協理(社長)一名協理(副社長)一名董事(支配人)三人清國人顧問一人獨逸人顧問一名ヲ置キ各々其權限ニ應シテ處理ス而シテ總協理董事查帳員ハ皆株主中ヨリ撰舉シ總督之ヲ認可ス任期ハ總協理四年董事ハ二年查帳員ハ一年トス而シテ其役員ハ左ノ如シ

漢口

王左之 總董兼總司查帳

沈元長

董事兼書記

形達四

賑房

吳靜甫

董事兼總稽查

李星甫

差遣

張子華

差遣

大冶

程聽彝

總協理

文頌伯

坐辦廠務

何公隆

幫辦廠務

姚虞琴

書記



曹少莊	賑務
盛少如	庶務
楊岳樓	庶務
歐桂卿	庶務
葉春庭	庶務
陳自亭	里紳
羅保山	里紳
江長春	機匠

(四) 特權

(A) 湖北省內十五箇年間專賣權

(B) 厘金免除及減稅

鐵道需要ノ「セメント」ニ對シテハ當分無稅ナルモ其他ノ用途ニ供スルモノニ付テハ唐山洋灰公司ノ例ニ倣ヒ正稅ノ五分ヲ課シ內地ニ於テ再ヒ厘金ヲ重徵セス

(C) 政府ノ利益保障

實業獎勵ノ主旨ニ依リ官ヨリ年五分ノ利益ヲ保證シ同會社ノ事業漸次緒ニ付クノ後ヲ俟テ五箇年ノ後官ニ返納スル事

(D) 官款借用ノ件

同會社ハ必要ニ應シテ湖北省官錢局ヨリ五萬兩ノ範圍内ニ於テ無利子ニテ借用シ得ルモ創設以來三箇年間ニ時々借用シ已

ニ制限ヲ超過シ官款十二萬兩トナレルヲ以テ目下ハ此特權ハ事實上行使スルヲ得ス

(五) 將來ノ見込及セメント市場ニ及ボス影響

清國ニ於テハ近時諸事業ノ勃興及鐵道敷設盛ニ行ハレ將來セメントノ需要激増スヘキ趨勢アルヲ以テ該會社ノ經理宜シキヲ得製造方法ノ豫想ノ如ク實行セラル、時ハ其好望ナル元ヨリ言フ俟タス  
目下漢口ニ於ケルセメントノ市價ハ左ノ如シ

グリーンアイランド	每樽	四兩、二五
唐山		同上
龍牌 (安南)		三兩、七〇
錫印		四兩、〇〇
日本中央		四兩、五〇

然ルニ水泥公司(商標城堡印ヲ使用ス)ハ市價四兩以下ニテ賣出シ得ル豫定ナルカ故ニ若シ其品質ニシテ他ノセメントニ比シ劣ルコトナクンハ他ノセメントヲ驅逐シテ市場ヲ左右スルニ至ルヘシ

(二) 湖北公儲錢局設立以來營業狀態報告

(明治四十二年十一月一日在漢口總領事代理渡邊省二報告)

公儲錢局ハ所謂官營貯蓄銀行ニシテ清曆昨年二月二日ヲ以テ開始シ資本金ヲ五拾萬元トシ湖北官錢局總辦兼勸業道高如松氏カ監督經營ノ任ニ當リ大ニ信賴スヘキモノアルト從前此種ノ官營貯金所無カリシ爲メ往々個人設立ノ錢舖等ニ預金シテ經濟界ノ動搖ニ伴ヒ損失ヲ被レル轍アルニ依リ公儲錢局ハ一般官民ノ歡迎スル處トナリ開始以來事蹟極メテ良好ニシテ貯金簿番號數貳萬號ヲ越エ目下長期ノ預金ニ各富豪公館ヨリ五拾萬兩ノ各學堂及ヒ學界諸人ヨリ四拾萬元尙業界ヨリ壹百萬吊文ヲ有シ其額殆シト貳百萬元ニ達セントス帳簿ハ毎日締切後官錢局ニ移シテ其原簿ニ轉記ス

今試參考ノ爲メ貯金章程ヲ載録スレハ左ノ如シ

(別冊湖北公儲錢局存款章程本文採錄)

### 湖北公儲錢局要旨

中國習慣。小民每有餘裕。非徒藏於懷。即隨手銷耗。究其原因。固由民間無勤儉自立之心。實由於未設獎勵儲蓄之故也。本局有鑒於此。特籌集資本銀五十萬元。仿外洋儲蓄銀行辦法。開創公儲錢局。收集細民零碎之資金。酌與相當之利息。一人如此。十人如此。推之千萬人如此。則積成巨款。而周轉於工商營業之途。利益相因。不可勝計。武昌都會繁盛。生齒衆多。舉凡工作匠徒。商店傭夥。小買賣生。男婦老稚。如有零星存款。不拘多寡。儘可隨時來局存放。一體妥爲保護。惟須遵照後開章程十九條辦理。想各存戶踴躍爭先。羣相儲積。實中國無窮之幸福。亦本局所踴躍不已者耳。

### 計開

- 一 本局現實籌集龍元五十萬元、爲開辦本局之資本、
- 二 凡將銀錢銀元三項願存本局者、錢以一百文起碼、銀元以一角起碼、銀以一兩起碼、無論多少、皆可生息、且不拘何人存放、本局一體安全保護、萬保無虞、
- 三 存戶當存放之初、本局設有簿據、以便登載存戶姓名隨即交付存摺、以爲憑據、
- 四 本局於收入存款之時、即將年月日及銀錢銀元數目、在存摺上記載明白、並蓋本局圖章、然後交付存戶、
- 五 本局交付存摺、存戶務須當場查閱摺內所記年月日及銀錢銀元數目、是否合符、如有錯誤、即時更正、
- 六 存戶欲支取款項、本局憑摺依數照付、毫無阻難、
- 七 零星存款、無論何月何日、均以本局收到存款之日起息、
- 八 大批存款、須滿一月後、方能自存款之日起息、倘未滿一月、即欲取用、本局只能付本、不能付息、以杜盤剝、

九 本局聽存戶之便、凡所存款項、隨時可以支取、但大批存款、須照第八條辦理、

十 凡有已經支取款項、本局按數照扣、不付利息、

十一 隨時存付之款、利息按照常年五釐、譬如以錢十千文生息、其一年之利息、爲五百文、六個月之利息、爲二百五十文、每、逢六月底及十二月底、將存款與利息總結一次計開所有利息、即作爲存款、利上生利、如存款不及半年者、祇能照存款常年五釐計息、不能利上生利、如滿二年本利全未支取者、再加半釐、共五釐五毫、滿三年本利全未支取者、再加半釐、共六釐、均照章半年利上生利計算、

十二 本局定於每年六月十二月清結原帳及利息一次、存戶可攜帶存摺、赴本局該對、

十三 工廠匠徒商店傭夥小販營生、所有銀錢銀元向本局存放、或有願將零星款項、合湊成資、存入本局者、但須公舉一人出名、當其責任、亦可存放、

十四 凡由舉定之人出名存入本局者、將來即由舉定之人持本局存摺支取款項、以免錯誤、

十五 定期零存整付之款、如每月存銀元一元、按月到局交存、毫無間斷、一年期滿、可付還存戶本利銀元十二元三角二分六釐、五年期滿、可付還存戶本利銀元六十八元壹角九分六釐、十年期滿、可付還存戶本利銀元一百五十五元五角壹分九釐、多少以此類推、如存戶願存錢存銀者均做此計算

十六 定期整存零付之款、如整存銀元一千元、言明分十年按月支取、此十年內、每月可付還存戶本利銀元十元六角二分五釐、如欲每年支取一次者、此十年內、每年可付還存戶本利銀元一百三十元二角五分、十年期滿、本利還清多少以此類推、如存戶願存錢存銀者均做此計算

十七 凡存款以存摺爲憑、關繫最爲重要、務須加意檢藏、勿得遺失、倘有存摺遺失、及關於盜賊水火災難等情、惟須速報明、以候本局查察、俟滿三十日、確無別樣情事、邀同的實保戶來局聲明、即交付新摺、照常支取、

十八 本局辦事時刻、冬季自秋分以後午前九點鐘起、午後四點鐘止、夏季自春分以後午前八點鐘起、午後五點鐘止、

十九 本局開辦之後、如有應行推廣事宜、屆時再爲酌量增入、以期益臻完善、

湖北公儲錢局存款積年增加表

利息週年五釐  
半年利上生利

存 入 之 款 項	右 爲 伍 拾 年	同 同 伍 拾 年	同 同 年
錢洋銀 陸陸陸 百百百 串元兩		一千五百一十三元八角八分四釐 一千五百一十三串八百八十四文 二千六百三十七兩一錢六分七釐 二千六百三十七元一角六分七釐 二千六百三十七串一百六十七文	
錢洋銀 參參參 千千千 串元兩		七千五百五十七元四角八分七釐 七千五百五十七串四百八十七文 一萬三千一百六十一兩二錢六分二釐 一萬三千一百六十一元二角六分二釐 一萬三千一百六十一串二百六十二文	
錢洋銀 壹壹壹 百百百 串元兩		七百二十元零九角六分六釐 七百二十串零九百六十六文 一千一百八十一兩三錢八分九釐 一千一百八十一元三角八分九釐 一千一百八十一串三百八十九文	

肆 拾 年	同 同 拾 年	同 同 貳 拾 伍 年	同 同 貳 拾 年	同 同 拾 伍 年	同 同 拾 年	同 同 伍 年	同 同 頭 年	年 次
一千五百一十三兩八錢八分四釐	八百二十八兩六錢四分六釐 八百二十八元六角四分六釐 八百二十八串六百四十六文	五百九十三兩九錢四分三釐 五百九十三元九角四分三釐 五百九十三串九百四十三文	四百一十兩零四錢五分六釐 四百一十元零四角五分六釐 四百一十串零四百五十六文	二百六十七兩三錢二分七釐 二百六十七元三角二分七釐 二百六十七串三百二十七文	一百五十五兩五錢一分九釐 一百五十五元五角一分九釐 一百五十五串五百一十九文	六十八兩一錢九分六釐 六十八元一角九分六釐 六十八串一百九十六文	一十二兩三錢二分六釐 一十二元三角二分六釐 一十二串三百二十六文	每 月 壹 串 存 款
七千五百五十七兩四錢八分七釐	四千一百三十四兩九錢九分三釐 四千一百三十四元九角九分三釐 四千一百三十四串九百九十三文	二千九百六十四兩六錢二分三釐 二千九百六十四元六角二分三釐 二千九百六十四串六百二十三文	二千零四十九兩五錢六分四釐 二千零四十九元五角六分四釐 二千零四十九串五百六十四文	一千三百三十五兩六錢八分一釐 一千三百三十五元六角八分一釐 一千三百三十五串六百八十一文	七百七十七兩三錢零二釐 七百七十七元三角零二釐 七百七十七串三百零二文	三百四十兩零八錢二分九釐 三百四十元零八角二分九釐 三百四十串零八百二十九文	六十一兩六錢三分七釐 六十一元六角三分七釐 六十一串六百三十七文	每 月 伍 串 存 款
七百二十兩零九錢六分六釐	四百三十九兩九錢八分四釐 四百三十九元九角八分四釐 四百三十九串九百八十四文	三百四十三兩七錢一分四釐 三百四十三元七角一分四釐 三百四十三串七百一十四文	二百六十八兩五錢零七釐 二百六十八元五角零七釐 二百六十八串五百零七文	二百零九兩七錢五分九釐 二百零九元七角五分九釐 二百零九串七百五十九文	一百六十三兩八錢六分二釐 一百六十三元八角六分二釐 一百六十三串八百六十二文	一百二十八兩〇〇八釐 一百二十八元〇〇八釐 一百二十八串〇〇八文	一百零五兩〇六分三釐 一百零五元〇六分三釐 一百零五串〇六十三文	壹 次 以 壹 百 兩 存 款

## 第十八 山東ニ於ケル利權回收熱ニ基ク企業ノ勃興

### (一) 汽船會社設立報告

(明治四十二年十月五日在芝罘副領事相羽恒次報告)

今般當地ニ於テ靖安小公輪船公司ト稱スル汽船會社清人ニ依テ設立セラレタリ同會社ハ一小汽船ト二隻ノ小荷船トヲ購ヒ芝罘ト繫山口間ノ客貨ノ運搬ニ當ラントスルモノニシテ繫山口トハ濰海州ノ一海口ナリ濰海州ハ當芝罘ノ東方六十清里則チ日本里數六里ノ所ニ位シ繫山口ハ濰海州ヨリ十七清里即チ日本里數一里強ノ海濱ニシテ畢竟同汽船會社ノ目的トスル所ハ濰海州ト當地間ノ運輸ヲ主トスルモノナリ濰海州ハ絹紬、麥稈眞田ヲ産シ是等ノ輸出貨及雜貨等ノ輸入物ハ何レモ馬背ニヨリ運搬セラレ其馬匹ノ數一日ニ五十頭以上ヲ算シ沿道ハ概ネ海濱ニシテ日本里三里許リノ砂道アリ步行ニ困難ナレハ蓋シ同汽船會社ノ設立ヲ促シタル原因ナル可キモ此繫山口ナル地ハ遠淺ニシテ且ツ風ヲ受ケ易クデヤンクノ如キスラ直接海濱ニ到ルヲ得ス故ニ現今ニ於テ「デヤンク」ニ依ルモノハ同地方產出ノ鹽、魚類及ヒ同地方ニ至ル少量雜貨類ノミニ過キス事情如是ナレハ如何ニ小汽船ナリト雖モ直チニ海岸ニ到リ得サル可ク譬シ到リ得ルトスルモ濰海州迄ハ尙十八清里ノ陸路アレハ當汽船會社ノ成功ハ覺束ナカル可ク資本金中一萬二千圓ハ既ニ募集中ナルモ目下ノ形勢ニヨレハ當地商人中ニテハ之レニ應スルモノ尠キカ如シ尤モ當會社ニ就キテハ既ニ商務總會ヨリ道臺ニ上申シ道臺ヨリ山東巡撫ニ同巡撫ヨリ北洋大臣ニ移轉シ既ニ是等諸官衙ノ許可ヲ得若シ開業六箇月ニシテ其成績好良ナル時ニハ更ラニ農工商部、郵傳部ニ出願認可ヲ得ルヲ要スル也今回募集ノ株券ハ一株五圓ニシテ一箇月六厘ノ利息付ニシテ外國人ノ應募ヲ許サ、ル也

### (二) 汽船會社設立ノ件續報

(明治四十三年一月十一日在芝罘副領事土谷久米藏報告)

當地ニ於テ靖安汽船會社ナルモノヲ設立シテ當烟臺ト繫山口間ノ運輸ヲ便ニセントスルノ計畫アリシカ同會社ハ資金二萬圓ノ大半ヲ募集シ得テ其中七千圓ヲ以テ二十餘噸ノ小汽船一隻ヲ購入シ尙ホ先キニ碇泊地ト定メタル繫山口ハ海濱水淺クシテ

小森汽船スヲモ繋留ニ不便ナルヲ以テ其對岸ノ養馬島ニ到ル事トシ本月十日ヲ以テ交通ヲ開始セリ汽船會社ハ清曆正月以後ニ於テ更ニ一隻ヲ購入スル由ナルモ目下ノ所ニテハ前記一隻ニテ當地ヨリ毎日二回宛出發シ其航程一時間半ヲ要ス云々又同會社事業ニ關シテハ曩キニ報告セルカ如ク有望ノ見込無ク果シテ陸上運輸ト競争シ得ルヤ否ヤ覺束ナキ也

(三) 濟南府ニ於ケル製紙會社 (明治四十三年三月廿九日在芝罘土谷副領事報告)

濟南府ニ於テハ曩ニ輸入品ヲ防遏センカ爲メニ製紙會社ヲ設立セリ其商號資本等左ノ如シ

名稱 山東濼源造紙公司、株式組織ナリ

經營者 丁道金之カ總辦ニ當リ外國技師即チ獨國人コーテス、ネーステ、ノ二人ヲ備ヒ入レタリ

資本金 庫平銀二十六萬兩壹株銀十兩拂込濟額拾四萬兩目下取集中ニ屬スルモノ十二萬兩

機械ノ數 一臺ニシテ獨逸製ナリ一昨年三月機械到着シ昨年二月組立ヲ終リ三月ヨリ製造ヲ開始スルニ至レリ

職工員數 職工四十名上手工ハ一箇月一萬貳千文普通工手九千文習工手七千文

製絲高 一日ノ製絲高千斤一晝夜二千斤但シ目下晝間ノミ製造スル趣ナリ

製紙ノ種類ハ別紙見本ノ通ニシテ甲字ヨリ癸字迄十種并ニ各種色紙アリ見本ニ於テ明ナルカ如ク普通日本ニテ用ヒラル、獨逸製ロール掛機械半紙ニ類シ其質脆弱ナリ其價額ハ左ノ如シ

甲字	每捆重	三十七斤	濟平銀	三兩三錢
乙字	同	三十四斤	同	三兩二錢
丙字	同	二十五斤	同	二兩五錢
丁字	同	四十斤	同	三兩六錢
戊字	同	四十四斤	同	三兩九錢

己字	同	三十斤	同	三兩
庚字	同	四十七斤	同	四兩二錢
辛字	同	三十七斤	同	二兩九錢
壬字	同	三十七斤	同	二兩九錢
癸字	同	五十三斤	同	不明
各種色紙	同	三十五斤	同	三兩九錢
以上每捆計十刀每刀九十六張				
新聞紙	每連五百張	同		二兩五錢

目下ノ情況 就業時間ハ午前六時ヨリ午後六時過迄ナリト云フ一箇月ノ賣上高統計不明ナルモ損益價ハサルモノ、如シ獨逸人二名ノ給料ハ一箇月四百兩ナリト云フ製紙原料ハ同地附近ヨリ古綿襪樓等ヲ買集メ之ニ充テ販路ハ未タ開ケ居ラサルモ新聞紙用トシテ最モ適當スルヲ以テ山東省各地ノ印刷所ニ販路ヲ求メ得ヘシト云フ

山東省内ニ於ケル紙ノ需要ハ其概算ヲ得ルニ苦ムト雖モ本省内地ニ於テ製造セラル、下等ノ物モ有ルヘク又直隸省及江蘇省等ヨリ本省西部地方ニ輸入セラル、モノモ有ルヘシ然レトモ芝罘及膠州灣ヲ經テ外國品及清國品ノ輸入サル、モノ少カラス今大體ノ總額ヲ左ニ掲クヘシ

芝罘及膠州紙輸入數量表

種別	芝					膠州					備考
	廿七年	廿八年	廿九年	四十年	四十一年	廿七年	廿八年	廿九年	四十年	四十一年	
外國品	一一、九九六	一六、五九六	一七、一六三	九、四四二	六、七七二	一一、四二九	一四、九五七	二二、二二六	一七、一九六	一七、五七七	單位擔即チ百斤以下同シ
清國品	六、五九二	七、七六八	六、七三八	四、三二四	二、八二七	二、七〇五	二、四五〇	五、四三九	四、六三〇	二、八二四	



ノ頃ナルヘシ左ニ本會社章程ノ大要ヲ掲ク

奉天榮華火柴公司章程

- 第一條 本公司ハ實業ヲ振興シ利權ヲ挽回スルヲ主旨ト爲シ名稱ヲ榮華火柴公司ト曰フ
- 第二條 本公司ハ有限株式會社ニシテ一切ノ章程ハ商部奏定有限公司章程ヲ遵守處理スヘシ
- 第三條 本公司資本金ヲ三十萬元トナシ株ヲ六萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ小洋銀五元トシ而シテ發起人ニ於テ十五萬元ヲ負擔シ他ノ十五萬元ニ對シテハ一般ヨリ株金ノ募集ヲナス
- 第四條 本公司ハ官界、教育及實業界中ノ有力者ノ合同主唱ニヨリ成立シタルモノニシテ實業界側提倡ノ責任ハ省城内ニ於テハ奉天商務總會之ヲ擔任シ官界、教育界側ニ提倡ノ責任ハ省城内ニアリテハ各學堂之ヲ擔任シ各市ニ於テハ各市ノ學董(學務委員)或ハ校長教習之ヲ擔任シ各自共力シ以テ斯舉ノ成功ヲ期ス
- 第五條 本公司ハ各市ノ商務總會(或ハ分會)ヲ以テ株金募集事務所ト定ム凡ソ應募者ハ先ツ族籍、氏名、住所ヲ詳細ニ届出テ同事務所ヨリ假株券ヲ受ケ開辦後本株券及利札ト交換スヘシ
- 第六條 凡ソ燐寸販賣業者ニシテ壹百株以上ノ應募者ニ對シテハ本公司ハ之ヲ特約販賣店ト定メ將來貨物仕入ニ關シ特別ノ利益ヲ附與スヘシ
- 第七條 凡ソ紳商士庶其當地ニ本籍ヲ有スルト否トヲ問ハス均ク募集ニ應ジ本公司ノ株主タルヲ得ヘシ但シ外國人ヨリハ株金ヲ募集セス
- 第八條 本公司株金ノ募集ハ本年十二月十日(清曆)ヨリ開始シ宣統二年三月十日ヲ以テ限リトナス
- 第九條 本公司ノ株金ハ悉ク之ヲ大清銀行ニ預入レ開辦以前ニ於テハ何人モ之ヲ融通スルコトヲ得ス若シ犯シタルトキハ發起人全體其責ニ任スヘシ
- 第十條 株券ノ法定利息ハ年四分ニシテ現金交付ノ日ヨリ起算シ滿二箇月後ヨリ利息ヲ附スヘシ

- 第十一條 毎年々末一回決算ヲ行ヒ法定利息及公司ノ費用ヲ控除シ其利益金ノ二分ヲ積立金トサシ五分ヲ株主ニ配當シ三分ヲ支配人及事務員ノ賞與金ニ充ツ
- 第十二條 法定利息及利益金ノ分配ハ翌年三月之ヲ行フ
- 第十三條 凡ソ壹百株以上ノ株主ハ本公司ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス
- 第十四條 本公司ニ總支配人一名副支配人一名會計董事二名監查董事二名工場董事二名ヲ置ク

- 第十五條 本公司開辦後ニ於ケル議事ハ本公司所定ノ役員八名集會決定スヘク若シ全員集會スルコト能ハサルトキハ過半數ヲ以テ之ヲ決シ其定足數ニ滿タサルトキハ期ヲ改メ再議スヘシ
- 第十六條 本公司經理人ハ株主ヨリ選派シ會計及其他事務員ハ經理人之ヲ推薦スヘシ但シ身元保證書及擔保一切ヲ具備スルヲ要ス
- 第十七條 若シ本公司株券及利札ヲ遺失シタルトキハ隨時保證書ヲ添ヘ本公司ニ報告スヘク本公司ハ該株券ヲ無効トナシ傍ラ之ヲ公告シタル上三箇月後ニ於テ再ヒ新株券ヲ交付スヘシ

- 第十八條 本公司株券及利札ヲ他人ニ讓與セント欲スルトキハ自ラ本公司ニ出頭其旨帳簿ニ記入シ經理人ニ於テ株券ノ裏面ニ當事者双方署名セシメ董事一名連印ノ上株主名簿ニ登錄スヘシ但シ先ツ舊株主氏名ヲ登錄シタル後新株主氏名ヲ記載スヘシ而シテ外國人ニ對シテハ讓與スルコトヲ得ス若シ發見シタルトキハ無効トス
- 第十九條 本公司ノ公告ハ悉ク之ヲ新聞紙上ニ掲載スヘシ
- 第二十條 本公司處辦規程ハ公議決定ノ上續行布告スヘシ

以上

(三) 奉天惠工有限公司設立ニ關スル報告

(明治四十三年三月七日在奉天總領事小池張造報告)

當地大東崗小河沿ニ在ル奉天工藝傳習所ハ光緒三十二年九月徐總督ノ創意ニ基キ開設シ所内ノ玻璃廠、木廠、毯廠、縫紉廠、燭皂廠、鐵廠、繡廠、織廠ニ於テハ各種工藝品ノ製作ヲ爲シ製品ハ悉ク同所内ニ陳列シ一般へ販賣シ來リタルカ今同當地有力ナル官民合同シ同所ノ資本ヲ增加シテ十二萬元トナシ奉天惠工有限公司ト改名シ同公司ハ純然タル株式會社トナレリ株券ヲ分テ二萬四千株トシ現在ノ建物機器一切ヲ六萬元ト見做シ之ヲ官憲ノ持株トシ他ノ一半六萬元ヲ商民側ノ負擔トセリ而シテ一株ノ金額ハ小洋錢五元ナリ蓋シ本公司ハ叙上ノ如ク資本増加ト共ニ從來ノ製作品ニ改良ヲ施シ且ツ價格モ亦三割餘ノ低減ヲ計リ倍々販路ヲ擴張ニ昂メツ、アレハ將來同公司ノ經營ハ漸次發展有望ノ域ニ達スヘシ

(四) 奉天元利有限公司ノ設立 (明治四十三年九月二日關東都督府報告)

遼陽城内居住織布業李育秀外奉天蘇家屯附近居住ノ有志者八名發起シテ奉天元利有限公司ナル名稱ノ油房會社ヲ創立シ營業場所ヲ蘇家屯驛附近(同驛ヨリ西方約五丁餘鐵道附屬地外)トシ油房事業ヲ經營スヘク其創立趣旨書及定款等ヲ左ノ如ク決定シ此頃之ヲ發表シ目下株金ヲ募集シツ、アリ該會社創立ノ動機ハ其趣旨書ニ記載スル如ク一年外人ノ爲メ滿洲豆業界ノ利益ヲ左右セラル、ヲ概シ之カ利權ヲ回收セントスルニアリト云フ而シテ營業ハ本秋大豆收穫ノ時ヨリ開始スヘク目下諸般ノ準備ヲ急キツ、アリ

元利公司株金募集趣意書

豆業ハ東三省ノ靈魂大ニ靈魂一タヒ失セハ人ノ生命保タレヌ豆業一タヒ失セハ東三省ノ生命亦保タレヌ是レ東省ノ實業ヲ研窮シテ其ノ公認スル所ナリ去年諮議局ノ議案中ニモ東三省ニ於テ豆業公司ヲ起スルハ急務必要アルコトヲ論セラレ其旨ハ不

拘人ノ之ニ應セサルハ資本ノ多額ナルガ爲メ

人ニテ企畫スヘカラサル事業ハ多數人ノ合辦トナシツ、アリシモ從來其意思區々ニシテ一切ノ大事業殆ト成功

ルコトナシ然レトモ豆業タル實ニ一大有利事業ナリ此ニ於テ我等同人志ヲ合セ茲ニ一豆業公司ヲ設立シ外國ノ株式會社ノ辦法ニ倣ヒ五十圓ヲ一株トシ四百株ヲ募リ合計小洋錢二萬圓トシ蘇家屯驛ノ西ニ家屋ヲ建築シ一臺ノ榨油機械ヲ購フシ數人ノ職人ヲ雇入レ先ツ小サク事業ヲ始メ成績ノ良好ナルヲ待ツテ漸次擴張セントス若シ果シテ成績良好ナレハ唯々奉天南方ノ豆業ノ利權ヲ外人ノ手ニ歸セサルノミナラス即チ東三省豆業ノ利權品此小公司ニ依リテ漸次回收セラルヘキナリ

元利有限公司株金募集規則

- 一 目的 本公司ハ大豆ヲ賣買シ本省ノ利權ヲ回收スルヲ以テ目的トス
- 二 名稱 本公司ハ商法十三條ニ照シ奉天元利有限公司ト名ツク
- 三 設立場所 本公司ハ奉天城南蘇家屯ニ設ク
- 四 設備 本公司内ニ豆油製造機械ヲ置キ雜貨店ヲ附設ス
- 五 株金 本公司株金ハ當地ノ人ヨリ募集シ外人ヨリ募集セス
- 六 株數 本公司株金ハ貳萬圓ヲ以テ定額トナシ一株ヲ一洋錢五十圓トス
- 七 株金拂込期 本公司ノ株金ハ二期ニ分チテ拂込ヲナス本年十月一日ヲ以テ第一期拂込期トシ半額ヲ納付シ明年立春ヲ以テ第二期拂込期トナシ殘額全部ヲ納付スルモノトス
- 八 帳簿 本公司ニハ股份總冊ナル帳簿ヲ備ヘ株主ノ姓名原籍現住所及株數ヲ詳細ニ記入シ番號ヲ附シ株券ト符合セシ
- 九 擴張 本公司ヲ擴張シテ新株募集スル時ニハ舊株主ヨリ夫々分擔スルモノトス
- 十 會議 本公司會議ハ三箇月毎ニ一開クコトトス



- 十一 計算 毎月小計算ヲナシ毎年大計算ヲオス
- 十二 議決權 大決算ノ場合ニハ監査役検査ノ上株主ニ報告ス
- 十三 利益 本公司株主總會ノ場合ニ一株ニ付一議決權ヲ有スルモノトス
- 十四 利息 本公司所得ノ純益金員十分ノ一ヲ以テ積立金トシ十分ノ一ヲ事務員ノ賞與トナシ十分ノ八ヲ株主ニ配當ス
- 十五 董事 本公司董事(評議員或ハ理事ノ如キモノ)ハ株券所有ノ最多ノモノヨリ十名ニテ各株主中ヨリ公選ス
- 十六 附則 本公司以上ノ規則中不可ノ點アラハ株主總會ノ時之ヲ改正スヘシ

發起人

李

育

秀

以下 八名